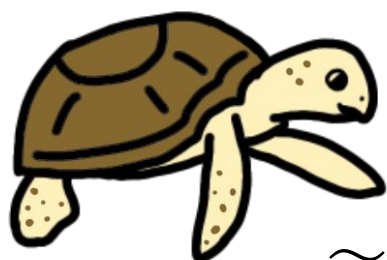
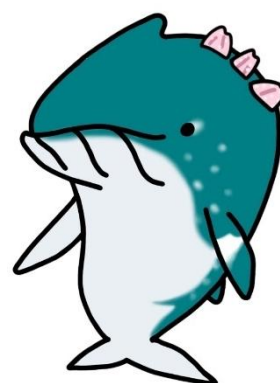

海辺の環境教育フォーラム 2025 in 南房総



～実施報告書～

2025年11月10日～12日



学校へ行こう～海の学びを教室へ～

～目次～

1. はじめに
2. 開催要領
3. スケジュール
4. 実施の記録
 1. プレイベント
 2. 開会式
 3. 海辺の環境教育 DAY 体験会
 4. 夕食懇親会①
 5. 海辺の環境教育 DAY 出張授業 ☆各種授業
 6. 海辺の環境教育 DAY 「うみかつ」ミーティング ☆各種ブース
 7. 懇親会②
 8. 海辺のカタリバ～環境教育と学校連携～(パネルディスカッション)
 9. 閉会式
5. 字母アンケート
6. 施設案内(会場の案内・アクセス)
7. おわりに
8. 実行委員名簿

1. はじめに

海辺の環境教育フォーラム 2025in 南房総 にご参加いただいた皆様

南房総の海と地域と学校と子供たちと交流いただきましたことに心より御礼申し上げます。

今回は学校へ行こう!～海の学びを教室へ～ をテーマにしました。計画時に皆さんの顔とマインドを思い浮かべて、教室で皆さんが先生になって授業をする姿を想像しました。フォーラムを終えた今、その想像は間違っていなかったと確信!安堵?!しております(笑)

さて南房総のような豊かな自然環境に恵まれた地域に暮らしていても、実は暮らしは都市的で現代的です。身の周りで起こる劇的な自然環境の変化に関心を寄せて行動に移せる仲間の輪を広げなければ!という危機感を持ちつつも、それでもやっぱり「楽しむ」ことは大切です。今回、学校でのみなさんの授業を受けた子ども達の感想を見ると大いに楽しんでもくれたようです。これから彼らが成長して様々な選択と行動をしてゆくときに、このフォーラムの記憶がどんな効果をもたらすのでしょうか。

希望と期待をもちつつこれからも海に向かい合いたいと思います。

海辺の環境教育フォーラム 2025in 南房総実行委員長 神保 清司



学校へ行こう!～海の学びを教室へ～

「自然の魅力を伝えたい」「自然環境を大切に思う気持ちを育みたい」と、強い志を持って活動をしている仲間が全国各地に大勢います。その一方で、「どうやって子供たちに自然のことを伝えれば良いのか」「誰かの力を借りたいが、誰に頼めば良いのか」と悩む先生方、「海で遊んだことがない」「自分の生活が海と繋がっていることを実感できない」という子供たちも大勢います。

今回のフォーラムではその課題に焦点を当てて、「どうすれば学校教育と環境教育を融合させられるのか?」について考えます。

舞台は千葉県南房総市。地域の愛着と誇りを育む教育「南房総学」を進めているこの地で、全国から集まった仲間、そして先生方や子どもたちと一緒に楽しみ、学び合いましょう!

2. 開催要領

○日時 2025年11月10日(月)～12日(水) 2泊3日

○会場 みなみぼうそうしたいぶさみさき 南房総市大房岬自然の家(千葉県南房総市1212-23)

○対象・定員 海や環境教育、学校教育に興味関心のある方 45名

○参加費

【一般・宿泊】食事・宿泊付き 25,000円(税込み)

【学生・宿泊】食事・宿泊付き 23,000円(税込み)

【地元向け・通い】朝食なし(1日目夜、2日目昼・夜付き)・宿泊なし 17,400円(税込み)

※宿泊費、食事代(1日目夜、2日目朝食夜(懇親会)、3日目朝)、プログラム代、オリジナルグッズ代、保険代が含まれています。

※会場までの交通費、1日目・3日目の昼食は含まれません。

【前泊をご希望の方】素泊まり・食事なし

※電子レンジ・ポット使用可、お風呂あり 別途3,000円(税込み)

※夕食はご持参もしくは済ませてから

○主催 南房総市大房岬自然の家

○共催 南房総市教育委員会、海辺の環境教育フォーラム 2025in 南房総実行委員会

○後援 南房総市

南房総アクティビティズプラットフォーム

一般社団法人南房総市観光協会

特定非営利活動法人森のようちえん全国ネットワーク連盟

一般社団法人日本アウトドアネットワーク

公益社団法人日本環境教育フォーラム

NPO 法人自然体験活動推進協議会

NPO 日本安全潜水教育協会(JCUE)

ESD 活動センター(全国センター)

関東地方 ESD 活動支援センター

海洋学習サイト「LAB to CLASS」

公益社団法人日本動物園水族館協会



日本海洋教育学会

NPO 法人海に学ぶ体験活動協議会

千葉県立中央博物館(順不同)

3. スケジュール

1 日目 11 月 10 日(月)

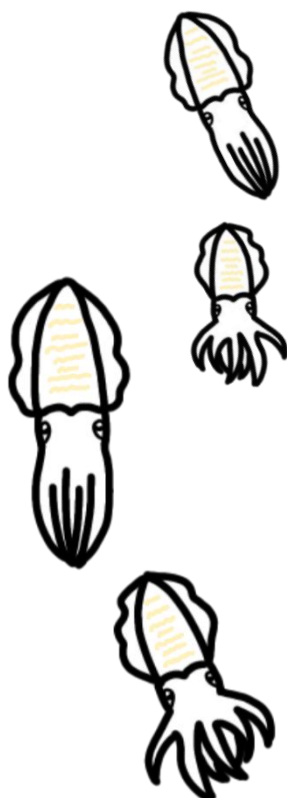
時間	内容	場所	詳細
9:00~ 11:00	プレイベント 「南房総の海を知ろう」 ※希望者のみ	大房岬自然公園 ※集合は自然の家玄関	大房岬公園内を、現地ガイドがご案内します  
希望者は JR 富浦駅、高速バス降車場とみうら元気倶楽部から大房岬自然の家まで送迎 ※時間については 17P アクセスを参照してください			
12:00	受付	自然の家ロビー	名札、T シャツをお渡しします
13:00	開会式 交流タイム	自然の家体育館	実行委員長挨拶
14:00	海辺の環境教育 DAY 体験会	自然の家体育館	出張授業のチーフ講師が授業内容を熱く語ります! どの授業に参加したいか究極の選択を 🔥
15:15	出張授業のチーム決定 チームごとに打ち合わせ		各チーム、出張授業の役割分担決めや打ち合わせ
16:00	フリータイム		
17:10	夕食準備	大食堂	選抜された食事係のみ食堂へ
17:30~ 18:15	夕食 &インフォメーション	大食堂	手洗いを済ませて大食堂へ! みんなそろっていただきます!
19:00	出張授業打ち合わせ(任意) &フリータイム		
20:00	懇親会①	大食堂	南房総の海の紹介もします!
21:00	終了		
19:00~23:00 入浴 21:00 以降はフリータイム 23:00 には宿泊室で休みましょう			

2日目 11月11日(火)

時間	内容	場所	詳細
6:30	起床		
6:50	朝食準備	大食堂	選抜された食事係のみ食堂へ
7:10	朝食 &インフォメーション	大食堂	手洗いを済ませて大食堂へ! みんなそろっていただきます!
7:50~	場所ごとに出発	玄関集合	持ち物:オリジナルTシャツ、名札、上履き
8:10 (11:50)	富浦小学校到着・準備 撤収・出発⇒富山学園へ		市バス1台(乗降のみ)、車2~3台駐車予定 ※車うち1台はウミガメ用ワゴン車 ※車は体育館側へ駐車させていただく ※教育委員会巡回の予定あり
8:35 (11:30)	富山学園到着・準備 撤収・移動⇒体育館へ		市バス1台、車2~5台駐車予定 ※教育委員会巡回の予定あり
9:15 (11:30)	千倉小学校到着・準備 撤収・出発⇒富山学園へ		車1~2台駐車予定 ※教育委員会巡回の予定あり
★配車については、出張授業チームが決まり次第調整します(市バス、ハイエース) ★富浦小学校、富山学園(富山小学校)、千倉小学校の3校へ分かれます ★富浦小学校、千倉小学校へ行った皆さんは、出張授業終了後に富山学園へ移動します ★詳しい時程は、P6の環境教育 DAY の欄を参照してください			
12:00頃	集合・昼食 うみかつミーティング準備	富山学園 体育館	昼食(お弁当を配布します) 実践報告者は準備
13:15	地域住民・保護者受付		地域住民や中学生の保護者の参観
13:30	環境教育 DAY うみかつミーティング	富山学園 体育館	★詳しい時程は、P6の環境教育 DAY の欄を参照してください
15:30	終了、撤収		
15:40	★自然の家へ移動(市バス、ハイエース) ★途中で、道の駅富楽里に立ち寄り予定(30分程度)お土産購入のチャンス!!!!		
17:00	ふりかえり、フリータイム		チームごとに授業のふりかえり、まとめ
17:30	夕食・懇親会準備	大食堂	選抜された食事係のみ食堂へ
18:00	夕食・懇親会 出張授業の報告会	大食堂	手洗いを済ませて大食堂へ! みんなそろっていただきます! チームごとに授業の様子を報告(5分×10チーム)
20:00	中締め		一旦、みんなで協力してお片付け 二次会かな・・・!?
20:00~23:00 入浴 20:00 以降はフリータイム 23:00 には宿泊室で休みましょう			

3日目 11月12日(水)

時間	内容	場所	詳細
6:30	起床		使用済みのシーツと枕カバーは、1階談話ホールのかごの中に、たたんで入れてください 毛布、ベッドマットは原状復帰をお願いします
7:25	朝食準備	大食堂	選抜された食事係のみ食堂へ
7:45	朝食 &インフォメーション	大食堂	手洗いを済ませて大食堂へ! みんなそろっていただきます!
8:40	退所点検(チェックアウト)		大きな荷物は、プラネタリウムの廊下に並べておい てください 忘れ物の無いようご注意ください 宿泊室退室後は、プラネタリウム・ロビー・オリエン テーションルームなどでお過ごしください
8:45	パネリスト打ち合わせ	小食堂	
9:30	パネルディスカッション	プラネタリ ウム	★詳しい内容は7Pを参照してください
11:30	休憩		
11:40	閉会式	プラネタリ ウム	全体でふりかえり、 次回のフォーラム開催地について(!?)
12:00	終了、解散		★高速バス乗り場まで、ハイエースでピストン予定
お弁当を注文された方は自然の家内、公園内でどうぞ🍱 お帰りの際はぜひ道の駅などでお土産をGETしてくださいね			



4. 実施の記録

1. プレイベント(10 日 AM)

本編のプレイベントとして、10 日の午前中に大房岬を回るプレイベントを実施しました。

大房岬自然の家所長神保清司氏、NPO 法人海辺の鑑定団理事長竹内聖一氏、しかたに自然案内鹿谷麻タ氏のガイドのもと展望塔—タイマイ浜—自然の家を周りました。参加者は10名で、タイマイ浜では、鹿谷氏によるレクチャーで砂浜のマイクロプラスチック採集体験を実施しました。大房岬の海と森の距離が近い地形を生かして、プログラムを実施していることなど魅力を伝えました。



2. 開会式(10 日 PM)

通年事務局長が交代して初めての海辺の環境教育フォーラムの開会の挨拶が通年事務局長の鹿谷麻タからありました。そして、2025in 南房総実行委員長の神保清司より、環境教育と学校連携をキーワードに開催する今回のフォーラムの目的について話がありました。



3. 海辺の環境教育 DAY 体験会(10 日 PM)

2日目に行う出張授業のチーフ講師から5分間ずつ、授業の内容について説明がありました。参加者からの質問に回答ののち、参加者は参画する授業を決めました。各チームで集まり授業について教育方法や教材について打合せと体験を行い授業に備えました。



4. 夕食・懇親会①(10 日ナイト)

食堂で授業のチームのメンバーと親睦を深めながら食事しました。懇親会では、南房総市のプロモーション動画を見ながら、南房総の海の様子や地域性について神保清司氏から説明がありました。参加者は、「綺麗な海!」「森もいいね」と、言う声があがりました。



5. 海辺の環境教育 DAY 出張授業(11 日 AM)

午前中は、南房総市内の小学校の3校で出張授業を行いました。チーム内でさらに授業内容がブラッシュアップされ、どの授業も子ども達は笑顔で、時に真剣に考えている様子でした。参加者とチーフ講師同士の交流の中で、自分の所属する組織や地域でも取り入れたい手法を考える機会になったかと思います。学校は、時間厳守で授業を進める方針や教科書での学びを重要視され、教室や特別教室は各校ごとに制限があります。そうした、学校ならではの空間での授業は、チーフ講師・参加者にとっても新たな発見があったことでしょう。

【南房総市立富浦小学校】

時間	学年	プログラム名	チーフ講師
10:30~11:15 @体育館	年少・年長 1・2年生	ウミガメレクチャー	鴨川シーワールド 齋藤純康さん 須合綾子さん
9:00~10:00 @家庭科室	3・4年生	海藻おしばクラフト	海藻おしば協会 高山優美さん
9:00~10:00 @多目的室I	5年生	富浦の海と福岡県の海を比べる	一般社団法人ふくおか FUN 大神弘太朗さん
10:30~11:30 @多目的室I	6年生	うみくらべ-北の海と南の海は どうちがう?	しかたに自然案内 鹿谷麻タさん

【南房総市立富山小学校】

時間	学年	プログラム名	チーフ講師
9:25~10:10 @オープンルーム	1・2年生	海の生き物について知ろう	NPO 法人 Earth Communication 川口眞矢さん
9:25~10:10 @教室	3年生	クジラと海の環境について	(有) 銚子海洋研究所 宮内幸雄さん
10:30~11:15 @教室	4年生	千葉県海と人々の暮らし	川村学園女子大学講師 ほか 新和宏さん
9:25~10:10 @教室	5年生	藻場のジグソーパズル	LAB to CLASS 八木澤潮音さん
10:30~11:15 @教室	6年生	海と観光	NPO 法人海に学ぶ体験協議会理事 檀野清司さん

【南房総市立千倉小学校】

時間	学年	プログラム名	チーフ講師
10:35~11:20 @教室	4年生	海はかせになろう! ~海の生き物とキミとのつながり~	足立区生物園/自然教育研究センター 海上智央さん



【ウミガメにかんするレクチャー】

担当:坂井遥 当日:坂井遥 参加者:青山銀三、井上智子、竹内聖一

団体名・氏名	鴨川シーワールド 斎藤純康、須合綾子			
実施場所	南房総市立富浦小学校 体育館			
実施時間	10:25~11:15			
実施クラス	年少13名、年長14名、1年10名、2年15名 計52名			
ねらい・目標	ウミガメのくらし(えさ、住处、生きる工夫、身を守る工夫、特技)を知る。 生き物に関心を持ち、自然の不思議さに気が付く。			
プログラムの概要	【事前】なし 【本時】①、②、③ 【事後】100字作文(担任実施)			
関連する教科と領域	生活科 (南房総学)	1年 なかよくなろうねちいさなおともだち 2年 めざせ生きものはかせ		
	国語	1年 しらせたいないきもののひみつ 2年 かんさつ発見カード		
	道徳	自然愛護		
本時の展開	①導入 20分	ウミガメについての レクチャー	ウミガメとは? どんなところで生きているの?	
	②展開 15分	ウミガメにタッチしてみよう	スタッフによる解説を受けながら、ウミガメに触る。	待っている人はウミガメの保護活動の動画を見る。
	③ まとめ 15分	ウミガメクイズ	何を食べている? →環境問題につながる。	
備品	学校:長机 2 台 大房:プロジェクター用台、ドラムコード 児童:ハンカチ			
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	鴨川シーワールド Ⓜ https://www.kamogawa-seaworld.jp/ Ⓜ https://www.facebook.com/kamosea ① https://www.instagram.com/kamogawaseaworld/ ⑤ https://www.youtube.com/channel/UCUzI3biISfjT_uJIiGjzhag			

	<p>・齋藤 純康〈鴨川シーワールド開発展示課 課長〉 1996 年に入社し 2 年間は海獣展示課員としてシャチトレーナーを経験した。その後、魚類展示課に異動になり、オオアメンボやマンボウ、ギンザメやサンゴ礁魚類などの飼育にたずさわった。2002 年から 2015 年までは東条海岸におけるアカウミガメの卵の保護活動を積極的におこなった。現在は、開発展示課の課長として教育普及活動やクラゲの飼育展示、千葉県に生息する希少生物の保全活動を担当する。</p> <p>・須合 綾子〈鴨川シーワールド開発展示課〉 大学時代は南房総市のおとなりの館山市の海で、磯の魚の繁殖生態を研究しました。シーワールド入社当初は魚類展示課員として日本産淡水魚や近海の魚、ウミガメの飼育などを経験し、その後現所属の開発展示課にてクラゲの飼育と教育普及活動を担当しています。教育普及活動としては、現在主に小学生を対象とした定期イベントの企画・運営を行っていますが、今後さらにできることの幅を広げたいと思い、今年 3 月に「科学技術コミュニケーター」の資格を取得しました。</p>
チーフ講師 感想	<p>齋藤純康:私自身は久しぶりに講師をやって子ども達の笑顔が見られて、あらためて実物を見たり触れたりする大切さを感じました。</p> <p>須合綾子:チーフ講師の齋藤がレクチャー自体は講師を務めたため、私は他の参加者の皆さんに模型や生体を出すタイミングや方法の指示をしました。皆さんより良い方法を自主的に考えて、それぞれ動いてくださったため大変助かりました。ありがとうございました。振り返りにあたり本レクチャーを他の動物でできるといった案や、思考や知識だけでなく感覚で捉えることの重要性、移動教室に生体を使うことに対する是非について、皆様からご意見を伺い、大変貴重な体験をさせていただきました。</p> <p>☆印象に残った子どもの反応☆ 「ウミガメは何で何でも食べてしまうんですか」ウミガメのクイズで、海藻を食べると予想した子供が多かった(全体の 2/3)こと、クラゲを食べると予想した子は幼稚園児にはおらず小学 1,2 年生に多かったこと(海ゴミ学習経験がある?)、意外にも幼稚園児の問いかけに対する反応や質問が活発であったこと、配られた子ガメや卵の模型の匂いを嗅いでいた。</p>
実行委員 参加者 感想	<p>本物のアカウミガメと学校で触れ合えるという体験は、情報収集ツールが発達し知識は持っているが体験機会が少なくなっている現代の子供たちにとっては素晴らしい機会になったと思います。少し怖がりながらも目の前で生きているウミガメを見たり、触れたり、自分の五感でアカウミガメを感じた経験によって、少なくとも子ども達の中にはウミガメへの愛着が形成されたことと思います。この愛着が今後他の生き物や地域の自然環境自体へと広がってってくれると嬉しい限りです。</p> <p>また、先生方も「私たちも触っていいですか...?」というようにウミガメの元へとやってきて、興味深そうにウミガメと触れ合っていたのが印象的でした。子供たちを教育する立場の先生たちが、この活動の意義や効果を感じることで、次年度以降の継続へと繋がっていくといいなと感じた。</p> <p>動物愛護の観点から、水族館のタッチプールが閉鎖されるなど本物と触れ合う機会はどんどん減少しています。ウミガメにかんするレクチャーも、学校にやってくるウミガメは狭い箱の中で長距離を移動したり、大人数の子供たちに触られるなど、多くのストレスにさらされます。世の中には様々な考えの方がいますが、少なくとも生き物への愛着を育むなど明確な目的</p>




	<p>があってのこのような活動は続いていって欲しいと、今回の子供たちの様子を見て強く感じました。</p>
--	--



【海藻おしばクラフト】

打合せ：花嶋桃子 当日：山崎大地 参加者：矢作裕子、高野恵美、羅先坪、石川陽子

団体名・氏名	海藻おしば協会 高山優美			
実施場所	南房総市立富浦小学校 家庭科室			
実施時間	9:00～10:00			
実施クラス	3年18名、4年26名 計40名（4名欠席※人数比未確認）			
ねらい・目標	<p>「きれいな海を守るために、自分に何ができるのかを考える。」 富浦の海の良さに気が付く、富浦に親しむ心情（地域愛着の形成）。</p>			
プログラムの概要	<p>【事前】磯遊び(5月実施) 【本時】海藻おしばクラフト （綺麗な海にし続けるためにできること ※アイデア(海岸清掃、分別)を伝える。暮らしに直結するもの 【事後】学校お任せ(担任実施)</p>			
関連する教科と領域	総合 (南房総学)	3年 富浦の海を知ろう		
本時の展開	導入 20分	食べたことがある海藻の形って？	クイズなどで普段食べている海藻の姿かたちのきれいさおもしろさ不思議さを感じる	
	展開 20分	① DVD 教材(10分)	海の森の役割や全国の海の森の様子、失われる海の森について鑑賞し海の森と山の森のつながり、海の森が消えるとどうなるのか？	


		②海藻の役割 アカモクの長さクイズ	海藻から始まる食物連鎖の話をパネルを用いて紹介。 海の中では海藻が重要という話。 教材を使ってアカモクの長さを伝える。	
		② 万華鏡づくり	万華鏡キットと予め準備しておいた海藻を使って作成。	
	まとめ 20分	海の森を考える	海の森が失われないように私たちが出来る事は何か?考える	
備品	学校:電子黒板 講師:スライドデータ、万華鏡キット(海藻、ハサミ、のり、海藻を入れる紙皿、ゴミ袋)			
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	海藻おしば協会 ④ https://kaisou048.jp/ 海藻おしば協会は、浜辺に打ちあがった海藻を使って海洋環境学習としての海藻おしば作り(海藻万華鏡作り)を実施している。ただのモノづくりではなく、海洋環境・地球環境保全の普及啓発活動を目的に各地でワークショップは出張講座を実施している。			
チーフ講師 感想	富浦小学校 3～4 年生の活発な発言に学ばせてもらいながら、関わったスタッフも楽しく学ぶ時間になった。地元の海藻を使ったことで普段はあまり関心がなかった海藻も重要な役割があり大切だと感じてくれたのではないかと思います。 ☆印象に残った子どもの言葉や話題☆ え?そんなに大きくなるの?ワカメは緑じゃないの?など海藻という生き物に「不思議」を沢山感じてくれたようでした。万華鏡をのぞいた瞬間や柄が変わっていく様子を「先生観てみて!!すごいので来たよ!!ヤバイの出来たよ!!お花みたいだから見て!!」など目を輝かせながら見せてくれました。海の森も山の森もどちらも大切にしたいと思うという感想を発言してくれた子もいました。			
実行委員 参加者 感想	高山さんの進行がテンポよく、質問や問いかけによる児童の反応もあり教室が一体となったプログラムとなった。ワカメや寒天の材料のテングサなど身近な海藻を例にしたので児童もイメージがしやすかったかと思う。スライド資料も写真が多く文字数少な目で対象年齢にあっていて、クラフトも難しすぎないレベルできちんと個性が出るものだった。スライドの内容を変える事で対象を変えても実施できるプログラムだと思う。			



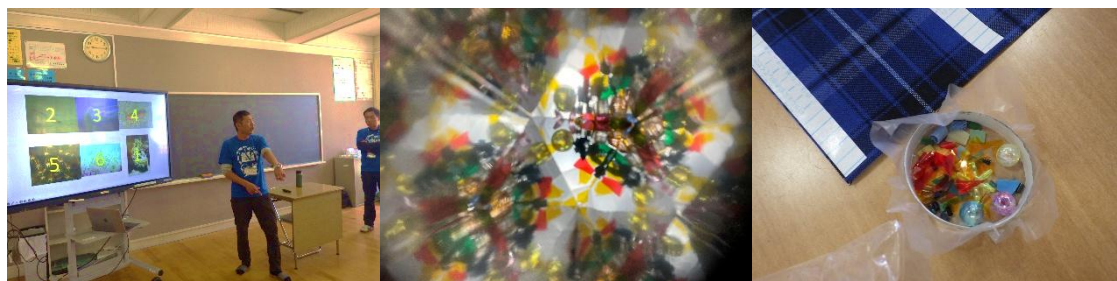
【富浦の海と福岡県の海を比べる】

打合せ:花嶋桃子 当日:伏谷海斗 参加者:里見嘉英、早川弘子、玉井茂博

団体名・氏名	一般社団法人ふくおか fun 大神弘太郎			
実施場所	南房総市立富浦小学校 多目的室			
実施時間	9:00~10:00			
実施クラス	5年26名			
ねらい・目標	富浦の海と他地域(県)の海の違いと共通点をみつけよう(生き物、環境課題、森と海のつながりなど)。自分たちにできることは何か考えよう。			
プログラムの概要	<p>【事前】ビーチコーミング(6月)、宿泊学習(森づくり)(10月)</p> <p>【本時】富浦の海と〇〇県の海を比べる。</p> <p>(他の地域の課題等も知った上で)自分たちにできることを考える。</p> <p>マイクロプラスチックやトイレトペーパーの芯、布の切れ端などから再利用された万華鏡キットを作成することで「ゴミから宝物ができる」ことを体験する。</p> <p>【事後】(担任実施)</p>			
関連する教科と領域	総合 (南房総学)	富浦の海		
本時の展開	導入	自己紹介	富浦と福岡の海の魅力や課題について	※アイスブレイク
	展開①	違いや共通点について考える	海は山や川、日本全てが繋がっていることを知る ※具体的な解決策	
	展開②	海ごみの課題に対してできることを知る	万華鏡キットの作成	
	まとめ	自分たちにできること	続けていくために必要なこと 万華鏡のねらいを伝える	
備品	学校:電子黒板 講師:富浦の海の魅力と課題(写真)			
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	一般社団法人ふくおか fun ④ https://fun-fukuoka.or.jp/ 【活動ブログ】活動の様子です https://fun-fukuoka.or.jp/.../%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83.../			

	<p>【全国アマモサミット 2023in ふくおか】 ※2022 in 館山 竹内さんよりバトンを受け継ぎました https://www.amamo-fukuoka.com/ ・大神弘太朗 福岡県福岡市出身。 大学在学中に訪れた西表島で、人々が自然を守る姿に感銘を受けダイビングインストラクターを志す。25歳の時に自然伝承を目的とした世界各地の旅を行う。東日本大震災を機に帰国。2014年博多湾を拠点とする一般社団法人ふくおか FUN を設立。 「自然と人のつなぎ役」をミッションとして、魅力と課題の双方から自然の事実情報を伝えるべく調査を行い、子どもから大人まで幅広い市民参加型の環境教育を実践している。</p>	
チーフ講師 感想	<p>5年生に向けた講義でした。海の生物のことや海の問題について良く理解している生徒が多かったので、少し踏み込んで話ができました。講義の最後に「この海はあなたたちに託します」と伝えたところ力強い返事がかえってきました。次に訪れた時に「富浦の海はとても綺麗だね、みんなが頑張ったおかげだよ」と伝えられる日を楽しみにしています。 ☆印象に残った子どもの言葉や話題☆ 限定的な言葉や話題ではないですが、笑う時間&発言する時は盛り上がり、話を聞く時は集中して聞くといったメリハリのある姿勢と終始真剣な表情はとても印象的でした。</p>	
実行委員 参加者 感想	<p>○児童の反応 最初は緊張していたが写真やクイズを通じて次第に活発に。 隣同士で小さく相談してから発言するなど自然なコミュニケーション。 クイズや問いかけに対し間違いを恐れず発言できる「安全な場」になっていた。 素直な反応も多く、感性豊かなリアクションが印象的。 「人工芝が流れてくる」「便利だから使う」など、現実を踏まえた意見も出た。 万華鏡づくりでは互いに助け合いながら政策、明るく協力的な雰囲気。 ○学校連携・関わり 担任の先生とは当日初対面。授業中に先生も参加者としてかかわった。 事前の打合わせは少なかったが現場で柔軟に調整。 今後に向けては「担任・学校長との事前コミュニケーション強化」が課題。 授業を通じて、子供だけでなく大人も「共に学ぶ」関係を作ることも意識。 ○感想 児童がしっかりと話を聞き、意見を交わす姿勢が素晴らしかった。 優しい言葉遣いやフォローのしあい、クラス全体の温かさを感じた。 子供たちが地元の海や生き物に詳しく、これまでの学びの積み重ねを実感。 「教える」よりも「共に学ぶ」時間になった。 双方向のコミュニケーションの大切さ、テンポのある進行、問いかけの効果を再確認。 即席チームながらメンバー間の信頼と一体感が高く、対話を通じて成長できた。 ○次につなげるための改善 授業後の児童や家庭のフィードバックを得る仕組みを作る。 発表や感想共有の場を授業内に組み込む連続プログラム型にする。 各地域の海を比較し日本の海のつながりを実感できる内容に拡張。</p>	



	<p>山形、福岡、南房総、横浜など地域間交流や海の比較をテーマにした新展開も検討。</p> <p>児童が「発信者」として自分の考えを表現できる成果物づくり(絵日記、展示)を導入。</p> <p>教材の多様化(万華鏡以外の体験・視覚的アプローチ)を検討。</p> <p>組織内でも今回の授業設計・運用プロセスを共有し人材育成コンテンツとして活用。</p>
--	--



【うみくらべー北の海と南の海はどうちがう？】

担当：花嶋桃子 当日：橋口和美 参加者：牛渡こはる、牛渡寛子、柏木由香利、今野雄治

団体名・氏名	しかたに自然案内 鹿谷麻タ			
実施場所	南房総市立富浦小学校 多目的室			
実施時間	10:30～11:30			
実施クラス	6年36名（6名欠席のため30名で実施）			
ねらい・目標	<p>「北の海と南の海の違いを知り、地域の海の豊かさについて考える」</p> <p>北の海と南の海のの違いって何だろう？水温の変化がもたらす栄養循環の仕組みの大きな違いを知ること、地域による海の豊かさの違いを理解する。そこから、富浦の海はどうか？という視点を得て、自分たちの地域の海の仕組みを理解するきっかけを得る。</p>			
プログラムの概要	<p>【事前】特になし※宿泊学習で森と海の繋がりについて学習済み(5年)</p> <p>【本時】北の海と南の海の豊かさの違いを、水温変化がもたらす栄養循環から考える。</p> <p>【事後】学校にお任せ</p>			
関連する教科と領域	富浦中学校の総合 (南房総学)	地域学習(藻場の再生、大葉わかめ、養殖)のプレ学習		
本時の展開	導入 10:38～	北の海と南の海は何が違う？	<p>北海道の海、沖縄の海のシートあり</p> <p>●北海道の海の豊かさは、水中に「栄養分」がたくさんあって、生きものの数が多い＝「生産性」が高いという豊かさ</p> <p>●沖縄の海の豊かさは</p>	

			「サンゴ」が作る「サンゴ」礁のおかげで生きものの種類が多い＝「多様性」が高いという豊かさ	
	展開 11:20 ～	水温の変化がもたらす 栄養循環の仕組み 海の基礎生産量が漁業 の違いをもたらすこと	北海道と沖縄の魚市場の違い	
	まとめ 11:25 ～	北と南では海の豊かさ の「質」が違う!では富 浦の海はどうだろう? 魚を食べるとき、産地な ど、ぜひ、調べてみて!	地域の海の学びに繋げる。 黒潮・親潮はどこを流れてい るかな?	
備品	学校:電子黒板→使用無し、パネルシアター的な小道具を貼れる黒板、ホワイトボード×小2つ 授業内で使用した写真(左:沖縄の海、右:北海道の海) 			
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	しかたに自然案内 ④ https://shikatani.net/ ④ https://www.facebook.com/mshikatani ・鹿谷麻夕 東京出身。東洋大学文学部国文学科卒業後、都内で印刷会社に就職するも半年で辞めて、海の自然を学び直したいと思い、1993年に沖縄へ。 琉球大学理学部海洋学科卒業、福井県立大大学院生物資源学研究科修了、東京大学大学院理学系研究科(生物科学専攻)後期博士課程中退。当時の研究テーマは二枚貝類の生態と分子遺伝学。 1998年のサンゴの白化をきっかけに、2003年しかたに自然案内を夫婦で立ち上げ、沖縄県内で海の自然ガイドと環境教育を始める。市民向けや学校向けのプログラム実績多数。 2022年度沖縄県環境保全功労者表彰。2024年ジャパンアウトドアリーダーズアワード特別賞受賞。 得意なテーマは、サンゴ礁・海草藻場・干潟の生態系と底生生物、二枚貝類、海洋ごみ問題、サンゴ礁と温暖化、環境教育とエコツーリズム			

<p>チーフ講師 感想</p>	<p>北の海と南の海の豊かさの違いを、水温差と栄養循環の関係から解説しました。パネルシアター形式で黒板を使って話を進め、サポートスタッフにはパネルを持って教室を動いてもらったりしました。子ども達には初めて聞く話で、途中少し難しい部分もありましたが、魚市場の写真の比較で、わ! そうなんだ! という手応えが得られました。ここから、富浦の海の豊かさを考えるきっかけにしてもらえればと思います。</p> <p>富浦小6年生の皆さん、担任の鈴木先生、そして一緒に授業を作ってくださったサポートスタッフの皆様にご感謝です! 私も、もっと伝え方に工夫の余地があるなど、良いフィードバックを受けることができました。ありがとうございました。</p> <p>☆印象に残った子どもの言葉や話題☆</p> <p>深い場所の水温の意外さや、魚市場の写真を見せた時の反応がとても良かったです。授業後の感想文には、沖縄の魚を食べてみたい、海はすごくおもしろい、透明度の違いが前から気になっていた、富浦の海は真ん中くらいかなあ、などの感想があり、テーマをしっかりと受け止めてもらえたことがわかりました。</p>
<p>実行委員 フォーラム参加者・感想(ふりかえり)</p>	<p>児童は、海にどのくらい身近であるか?</p> <p>「海で泳いだ」「釣りをした」「干潟で遊んだ」「ごみ拾いをした」「海の魚を食べた」</p> <p>恥ずかしさもあり、該当する問いに対して遠慮がちに手をあげる。</p> <p>授業の感想</p> <p>→ 沖縄の海はきれいだけど、魚が少ないことにびっくりした。</p> <p>講師より→「種類はいっぱいいるから、ぜひ沖縄の海にきてね!」</p> <p>→ 推進 2,000m はどこの海でも水温が変わらないことにびっくりした。</p> <p>→ 沖縄の海は多様性、北海道の海は生産性が高いことがわかった。</p> <p>(担任鈴木先生感想→先生自身も授業をうけて初めて知ることがあり、びっくり! だからあたたかい海は綺麗だということがわかった。)</p> <p>1. 授業対象と児童の反応</p> <p>発言の活発さに課題。高学年特有の多感な時期と相まって、期待していたような活発な様子ではなかった。</p> <p>●課題に対する改善策(提案)</p> <p>次回の授業に向けて、児童の学習意欲と参加意識を高めるための以下のアクションはどうだろうか?</p> <p>①事前準備の強化(期待感の持たせる)</p> <p>●授業予告動画の作成: 授業内容への興味や期待感(わくわく感)を事前に高めるための導入動画(1分程度)を作成し、授業前に視聴してもらう。</p> <p>●担任教諭との連携強化:</p> <p>授業直前のクイック打ち合わせを実施し、児童やクラスの最新の雰囲気、特に発言を引き出しやすい児童の特性やクラス内の流行り等を把握する。</p> <p>理想としては、授業前日に講師と担任が対面で打ち合わせを行い、授業の目的、児童の背景、そして本番授業の事前・事後学習をどのように連携させるかを綿密に確認する。</p> <p>②事前・事後学習との連動: 授業単体で終わらせず、学校側の事前学習と事後学習(例: 調べ学習、感想文など)の内容を確認し、本番授業がそれらと効果的に繋がるよう工夫する。</p> <p>2. 視覚教材の活用と提示方法</p> <p>①教材提示について</p>

	<p>ホワイトボードの活用:北の海と南の海の違いに関する情報をホワイトボード2台に整理・掲示。児童が常時見直せる環境を提供し、情報の比較検討が容易になった。即時的な比較・参照という点で非常に有効だった。(デジタル画面投影では困難な手法)</p> <p>②教材の形式について</p> <p>黒板貼り付け教材(モニター不使用)を中心に展開。チームでの協働授業という点ではメリットがあった。</p> <p>海の「動的な様子」を伝えるには、写真だけでなく動画(例:北海道や沖縄のそれぞれの海の様子)を部分的に組み込むことで、臨場感と理解度がさらに高まった可能性がある。</p> <p>3 授業構成(内容)と時間の配分</p> <p>1時間の授業が「あっという間」に終了した。地域に根差した学習の掘り下げについては、もともと担任の先生にバトンタッチする形で授業を予定していたが…一案として「富浦の海」に焦点を当てる時間を増やすため、北と南の海の違いといった基礎的な比較学習は、事前の宿題または予習教材として学校側に対応してもらう。本番授業は、富浦の海(現地性)に関する深い探究や討議に特化させる。</p>
--	---




【海の生き物についてしよう】

打合せ:花嶋桃子 当日:宮寄舞 参加者:興海佑、井川森音、柏尾翔

団体名・氏名	NPO 法人 Earth Communication 川口真矢	
実施場所	南房総市立富山小学校 オープンルーム	
実施時間	9:25~10:10(2時間目)	
実施クラス	1年5名、2年22名 計27名	
ねらい・目標	海の生き物(磯・浜・沖、寒暖、種類)のくらし(えさ、住处、生きる工夫)を知る。 生き物に関心を持ち、自然の不思議さに気が付く。	
プログラムの概要	<p>【事前】海にはどんな生き物がいるか知る。9月19日磯遊び実施</p> <p>【本時】海の生き物について知る。</p> <p>【事後】観察シートを書く ※担任実施</p>	
関連する教科と領域	生活科 (富山学)	1年 きせつとなかよし(磯遊び) 2年 海の生き物を探そう

本時の展開	導入 10分	①自己紹介 ②事前学習の振り返り	・(大房岬での磯遊び)での写真を活用し、磯遊びの時の海の様子や見つけた生きものを思いだす。	
	展開 25分	①学年ごと4・5人のグループを作り、事前学習(磯遊び)を思い出し、大きく印刷したフィールドの写真に、代表的&面白い生きものの写真を切って貼る。 ②「どうしてその場所に、その生きものがいたのか?」を考える。 【全体】	※グループは、クラスで決まっているグループでも可能。学校として個人ワークの方が良ければ、個人ワークでも可能。 ※まとめ学習(国語)に合わせ、個人でまとめ作業を行う。	各グループにチーフ講師とフォーラム参加者が1名ずつ同伴し、アドバイスや安全管理(ハサミの使用)を行った。 磯遊び当日の生きもの+大房にいる生きものの写真を印刷した。 全体への質問として投げかけた。 隠れている、家になっているなどの意見が出た
	まとめ 10分	①生きものたちとその生きものが暮らす環境のつながりを1~2例紹介。(棘や毒で身を守る・餌を食べる) ②他地域の海で観られる特徴的な生きものを紹介。	・海や海の生きものの面白さ ⇒ 海や海の生きものに興味を持ってもらうきっかけにつなげていきたい。	チーフ講師やフォーラム参加者の活動地・出身地の海について紹介して、大房の海と比較した。(静岡・大阪・奄美)
備品	学校:電子黒板 講師:PC、事前学習の際の様子やいろいろな地域で観られる生きものの写真などをまとめたスライド、事前学習の際に見つけた生きものの単体の写真 大房:糊やテープ、はさみ(授業準備の際に、スタッフ間で切ることができれば不要。できれば、事前にカットしておきたい。当日は貼るだけにしておけたら理想) 当日はある程度の大きさに揃えて切っておいて、子どもたちに好きな形で切れるようにした事前学習の際の磯の写真(磯写真パネル→A1)			

<p>実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等</p>	<p>NPO 法人 Earth Communication</p> <p>④ https://earth-commu.jimdofree.com/</p> <p>⑤ https://www.facebook.com/Earth.Commu</p> <p>・川口眞矢</p> <p>地元(静岡県御前崎市)で、海辺の自然体験活動や環境学習活動、久々生(くびしょう)海岸やアマモ場の保全活動などに取り組む NPO 法人 Earth Communication の代表を務める、みっちー(川口 眞矢)です!</p> <p>自分が育った海をフィールドに、未来を担う子どもたちと共に日々楽しく活動中!海だけでなく、市内の里山の保全活動や生きものと共生する田んぼづくりにも取り組み、海と里山をつなぎ、循環する活動を目指し日々模索&奮闘中!!</p> 
<p>チーフ講師 感想</p>	<p>小学1・2年生を対象とした授業だったため、子どもたちをどう飽きさせず、楽しみながら学んでもらうことができるか?!が、とても重要な課題でした。子どもたちとのコミュニケーション力が必須になってしまいましたが、ワークショップを取り入れ、スライドでは文字を極力使わないようにしたことで、楽しみながら海の生きものについて学んでいただく時間を作ることができたかと思います。チームの皆さんにも実際に子どもたちと関わっていただき、楽しそうにコミュニケーションをとっている様子を見ることができたので、本当に良かったです。</p> <p>☆印象に残った子どもの言葉や話題☆</p> <p>今回は1時間分の授業時間だったこともあり、子どもたちが作成した磯の生きものパネルを全体で見せ合い、共有する時間は作ることができませんでした。ですが、合間の少しの時間で、別グループが作成したパネルを見て「みんな似ている!」と言ってくれた子どもたちがいました。子どもたちには言葉で直接的に伝えていませんが、今回実施した『海の生きものについて学ぶ』ワークショップのねらいを達成できたように感じました。</p>
<p>実行委員 参加者 振り返り</p>	<p>【反省点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のりを使用する際に床や机が汚れないように新聞紙等持っていく ・はさみを用意したが右利き左利きの用意ができていなかった (左利き用も持って行ったがメンバー内で情報共有できていなかった) →学校で実施する際はのり・はさみを個人で用意してもらった方が良さそう ・用意した写真で、手にのせた生きものの写真は手の部分を切ることに抵抗がある子どもが多かったため、写真の選定段階で外す。事前の磯遊びでも撮影の際に注意 <p>【学校との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数がインフル流行で大幅に減少していたので、当日朝までに状況がわかっていると良かった(1年生 14名→5名) ・配慮の必要な子の情報がメンバー間で共有できていなかった。(肢体不自由の児童、骨折や病欠で磯遊び当日参加していなかった児童がいた) ・担任の先生の名前が共有できていなかった <p>【児童の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯遊びで見た生き物への問いかけ→だいたい覚えていた。ナマコ、ウニ、カニ、エビ 写真に当日いなかったものも混ぜていたが、これいつか?とちゃんと疑問を持っていた ・パネルに生きものを貼るときは、いい意味でもめていた(ウニはそんなところになかった、こっち!みたいな)

	<p>・磯遊び当日休んでいた児童は、何がいた?などの話に入れず不満そうだったが、パネルに貼る生きものを切っているときにお気に入りを見つけられた。最終的にはみんなの輪に入ることができたが、現地に行けなかった児童のフォローも考えた話の展開が必要だった。</p> <p>・終盤の解説で、イソギンチャクモエビがサンゴイソギンチャクにいる写真を出し、どこにいるか質問すると思わず近づく子どもが多かった</p> <p>・違う地域の海の話は興味深く話を聞いてくれていた</p>
--	---



【クジラと海の環境について】

打合せ：花嶋桃子 当日：清水旭 参加者：菊池穂乃佳、白井健、

団体名・氏名	(有) 銚子海洋研究所 宮内幸雄			
実施場所	南房総市立富山小学校 3学年教室			
実施時間	9:25～10:10(2時間目)			
実施クラス	3年22名			
ねらい・目標	クジラがどんな生き物なのか学ぶ 自分のくらしと海が密接につながっていることを知る。			
プログラムの概要	<p>【事前】くじらの骨格をしてみる(案) 11月4日</p> <p>【本時】くじらについて知る</p> <p>【事後】学校にお任せ</p>			
関連する教科と領域	総合 (富山学)	南房総を探検しよう		
本時の展開	導入	①海にはどんな生き物がいるか知ろう	①自己紹介 ②調子海洋研究所について	クイズやといかけ
	展開	①大房岬に打ちあがったクジラについて知ろう ②クジラの骨に触ってみよう	①クジラを知ろう ②クジラの住んでいる海の環境について ③環境問題を知ろう	生活

	まとめ	①クジラは遠い生き物ではない ②宮内さんの紹介	①海の環境を守る ②質問	自身の周りから考える
備品	講師: パネル 学校: 電子黒板			
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	銚子海洋研究所 ④ https://choshi-iruka-watching.co.jp/ ・宮内幸雄 イルカクジラウォッチング事業実施を目的に(有)銚子海洋研究所を設立して2025年で27年になります。 その前身は地元水族館の飼育技師として24年間多種多様な海産物の飼育に携わってきました。 現在は水族館経験を生かした「世界一ちっちゃな水族館」を2019年より開館中です。 また海洋環境保護、保存の観点から2020年に(一社)OceanLifeCommunity14を設立し、海洋ゴミ回収プロジェクトとして、海岸ゴミ拾い、船舶を使用した海洋ゴミ回収、海洋環境の講義等の海洋環境に特化した活動を実施しています。			
チーフ講師感想	この度の小学3年生の授業につきまして、まずはクジラや海洋ゴミについて思いのほか真剣に食い入るように聞いてくれたこと、実際のクジラの歯やヒゲ板、マイクロプラなどにとっても興味を持ってくれたことに私自身驚きと感動を得ました。授業として児童たちとの楽しい対話の時間を作ってくださった実行委員の皆様のご配慮に厚く感謝申し上げます。 ☆印象に残った子どもの言葉や話題☆ イルカクジラ寿命や胃内容物ゴミ類について話題になった			
実行委員参加者感想	講義型の授業だった。事前授業の際、かなり元気のいい子たちだったため少し不安だったが講義スタイルであれば話を聞かない子などは出なかった。授業内容も子どもたちの興味を引くもので、集中力が切れそうなタイミングでクジラのひげを触らせたりすることで最後までしっかりと聞く姿勢が保たれていた。改善点があるとすれば、せっかくウォッチングをされている宮内さんに話をしてもらったので、実際にウォッチング中のクジラの動画などがあるとよかった。			




【千葉県海と人々の暮らし】

打合せ：花嶋桃子 当日：佐藤昭仁 参加者：川名まひろ、土川仁、小林健治

団体名・氏名	川村学園女子大学 新和宏			
実施場所	南房総市立富山小学校 4学年教室			
実施時間	10:30～11:15 (3時間目)			
実施クラス	4年32名			
ねらい・目標	千葉県野海にまつわる暮らしを知る			
プログラムの概要	<p>【事前】南房総市内の海にまつわる暮らし(捕鯨、(食、観光、文化、工芸))について知る。 【本時】他の地域(千葉県内(内房、外房))の海にまつわる暮らしについて知る。 【事後】自分の暮らしと海とのつながりについてまとめる。 ※聞いたこと、自分とのつながり、その理由 (担任実施)</p>			
関連する教科と領域	社会科	県の広がり		
本時の展開	導入	①自己紹介	①自己紹介 ②事前授業の復習	
	展開	①くじらの生態 ②くじらと同じように活用されてきた生き物	①海の写真をみよう ②千葉県の海はなぜすばらしいのか ③海と人のかかわり ④捕鯨について	
	まとめ	質問タイム	①海をどうしたら守れるのか ②質問	
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	<p>川村学園女子大学 ・新和宏</p> <p>千葉県の学芸員採用. 千葉県立中央博物館教育普及課長→自然誌・歴史研究部長→海の博物館長で定年(2019). 千葉市科学館館長補佐(～2024). 現在は川村学園女子大学講師(古生物学と博物館学). Interactive Museum and Institute center 代表(2023～). 日本ミュージアムマネジメント学会理事兼研究部会長, 日本海洋教育学会運営委員, 日本海事科学振興財団海の学びコーディネーター, 生物多様性ちば市民の会委員, ちば自然誌研究会副会長兼事務局長. 専門は古生物学, ミュージアムマネジメント学, 海洋教育学, 環境学.</p>			



<p>備品</p>	<p>学校:電子黒板 児童:筆記用具 授業で使用した資料の一部</p> 
<p>チーフ講師 感想</p>	<p>富山地区での講座と言うことで歴史ある捕鯨の歴史を基軸にクジラの生態から導入し、捕鯨の歴史、そこから連綿と引き継がれている食の領域までを事前学習と当日の授業で展開しました.よく言われる博学連携の域を超えた program 展開が体现できたと検証しています.一つのモデルケースになったと考えています.</p> <p>☆印象に残った子どもの言葉や話題☆</p> <p>クジラという生物の祖先や種類,生息場所等に関心があるようでした.また地元の産業として捕鯨が江戸時代から行われていたことも改めて知る機会になり,自分達が育っている場所での歴史にも目を向ける姿勢が見受けられました.</p>
<p>実行委員 参加者 感想</p>	<p>3年生と同様に講義形式授業だった。事前授業からの続く内容だったが、事前授業の際に休みが多かったので、事前授業の内容にも触れてから進めてもらっていたので、おいていかれている子はいなかった。ただクジラや海のことを知るのではなく、歴史背景を知ったうえで話を聞くことができたので理解度が高くなっていたように感じる。</p> <p>クジラの骨や化石など触らせることもしたかったが、事前授業の内容を復習したので時間がなく授業後に少し触る体験を取っていた。</p> <p>内容に関しては若干4年生には難しいかなとも感じた。地層の話なども出てくるので、授業でも地層が出てくる6年生向けに行うともっと理解度や授業で受けたことの発展として受けることができるように感じた。また、対話や体験の時間を取り入れることで主体的に学ぶ時間の確保ができるとよいと感じた。</p>



【藻場のジグソーパズル】

打合せ: 牧田和紗 当日: 牧田和紗 参加者: 小原朋尚、永島美保、野澤健夫

団体名・氏名	LAB to CLASS 八木澤潮音			
実施場所	南房総市立富山小学校 5学年教室			
実施時間	9:25~10:10 (2時間目)			
実施クラス	5年30名			
ねらい・目標	「他の地域の海と森のつながりと取り組みを知ろう」 森と海のつながり(水の循環)を理解する。 他の地域の取り組みを知る。			
プログラムの概要	【事前】富山(阿加井、岩井川、平郡川、岩井海岸)の海と森のつながりを知る。 【本時】他の地域の海と森のつながりと取り組み 【事後】地域の海と森のためにできることを考えよう。(担任実施)			
関連する教科と領域 単元・題材名	総合 (富山学)	ばく私の考える、これからの岩井海岸		
	社会科	私たちの生活と森林		
本時の展開	導入 15分	①自己紹介 ②「藻場のジグソーパズル」 福岡県北九州市周辺の海の様子を知ろう。	1)1人1枚パズルを見て、何が描かれているか、どのような場所か想像する 2)全員でジグソーパズルを完成させる ※早めにピースを置き終わった子に余りのピースを渡す 3)パズル完成後、自分のピースがどの場所にあるかを確認する	
	展開 15分	「富山にあるもの・ないもの探し」	1)パズルを見ながら、富山にあるもの・ないものを探す。 2)富山にあるもの・ないものをそれぞれ発表してもらう ある:ワカメ(海藻) ない:風車、工場 3)森から海のつながり水の循環の話	・板書する

	<p>まとめ 10分</p> <p>①「北九州市の海のお話～死の海からの復活～」</p> <p>②感想・質問</p>	<p>・開発と公害の歴史について</p> <p>・死の海からの再生について</p> <p>→森から海への水の循環と、住民・行政・企業の連携が肝だった</p> <p>・今の海と新たな課題 洋上風力発電について</p>	
備品	<p>学校：事前授業で拾った漂着物、黒板、電子黒板</p> <p>講師：藻場のジグゾーパズル</p>		
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	<p>LAB to CLASS (海洋学習教材サイト)</p> <p>⑥ https://www.facebook.com/lab2c.net</p> <p>④ https://lab2c.net</p> <p>海あそび舎</p> <p>① https://www.instagram.com/umi.ashiya/</p> <p>④ https://sites.google.com/view/umi-ashiya/</p> <p>・八木澤潮音</p> <p>海無し奈良県出身、沖縄・琉球大学にて海洋生物や環境保全を学び、東京にてマリン・ダイビング器材メーカーで働いた後、福岡にて海あそび舎をスタート！春夏秋冬さまざまな海辺の自然体験を開催しています。LAB to CLASS プロジェクトとして海洋学習教材の制作や指導者養成に取り組みながら、海を楽しく伝える場を増やすべく奮闘中。学生時代に海辺の環境教育フォーラムと出会い、人生変わっちゃいました♪</p>		
チーフ講師 感想	<p>パズルのピースを渡すと興味津々で、声をかけ合いながらチームワークよくパズルを完成させていたことが印象的でした。森から海までのつながりや水循環については、野外の事前学習で体験したことを思い出していました。公害汚染の話にはショックを受けながらも、そこからどのように人々が自然と向き合ったのかを知り、さらに未来を考える機会になったのではないかと思います。貴重な機会をありがとうございました。</p> <p>☆印象に残った子どもの言葉や話題☆</p> <p>・藻場のパズルが完成したときに、「この生き物は富山にもいる!」「これって〇〇かな?」「これ美味しいんだよ!」と知っていることを教えてくれました。</p> <p>・富山と北九州を比べたことで、工場や風力発電が富山に無いことに気付いていました。</p> <p>・パズルの上に矢印マークを置いて水循環の話をした際に、この矢印(水)はもっと深いところまで動くはず!こんな動きもしているのでは?と水の動きを想像していたことが印象的でした。</p>		
実行委員 参加者 感想	<p>ジグゾーパズルを組み立てる時の工夫を様々することによって、学びの質と量が増える。そんなことを感じる授業でした。パズルの1ピースから気が付くこと。煙や栄養を可視化することで気が付くこと。子供たちの中で、森と海の水の循環についての認識はかなり上がったのではないかと思います。今後も5年生は、森林や水産の学習が続きます。学びがつながっていくと嬉しいです。</p>		






【海と観光】

打合せ: 牧田和紗 当日: 牧田和紗 参加者: 金子光昭、泉香織、奥野淳兒

団体名・氏名	NPO 法人海に学ぶ体験活動協議会 檀野清司		
実施場所	南房総市立富山小学校 6学年教室		
実施時間	10:30~11:15 (3時間目)		
実施クラス	6年36名		
ねらい・目標	「富山と他の地域を比べて、富山のよさに気が付く」 富山の海の様子(自然を生かした観光、漁業、(豊かな生き物))を知る。 富山の海と他の地域の共通点と相違点を見つける。 富山の海の良さに気が付く。		
プログラムの概要	【事前】富山の海の様子(観光・漁業、(生き物))を知る。※修学旅行 【本時】富山の海と全国(観光・水産業などで栄える地域)の海を比べる。 【事後】富山の海について感じたことをまとめよう。(担任実施)		
関連する教科と領域	総合 (富山学)	富山をこんなまちにしたい	
本時の展開	導入 5分	①自己紹介@2【全体】 ②めあて【全体】	・講師→参加者 地域の良さを伝える観光について学び、街づくりについて考えよう。
		富山と他地域の海を比べて、富山の良さに気が付こう	

	展開① 25分	<p>①地域の良さを比べる ・鎌倉(江の島)・箱根の良さ【班】5分</p> <p>・全体共有 ②富山の良さ【班】5分</p> <p>・全体共有 ③その他の地域(伊東・伊豆・南房総)の良さ5分【全体】</p>	<p>※修学旅行で行った鎌倉(江の島)・箱根の良さはどんなところ? (残るもの?残にはどうしたらいいと思っている?)</p> <p>※鎌倉・箱根と比べる。</p> <p>※伊豆の様子→ダイバーが多い、渋滞が多い、温泉がある。南房総→アクティビティが充実している。勝浦→勝浦タンメン(海と繋がる地域性のある暮らし)がある。</p>	・フォーラムの参加者が班の進行のサポートを行う
	展開② @10	<p>①観光に活用 ・マイナスの面もあるか? 【班】</p> <p>・全体共有</p>	<p>※観光で人が集まることで地域が盛り上がる。</p> <p>・オーバーツーリズム(渋滞)</p> <p>・マナー(ごみ、騒音)</p> <p>・地域性のある暮らしがある。(第一産業をしている人がいるなど)</p> <p>・海の生き物</p> <p>※他地域の海の自慢を聞くことで、富山の良さに気が付く。</p>	<p>フォーラムの参加者は班活動の意見の促しなどを行う。</p> <p>※良さをを見つけることで、各地域の良い面悪い面に気が付く。</p>
	まとめ @5	<p>講師より一言 ・富山の海の良さどんな地域にしたいか考えよう。 【全体】</p>	<p>・体験して感じることで魅力に気が付いていけるとよいですね。</p> <p>・良さを保ちながら、観光資源として生かしていくには工夫が必要。</p>	
備品	<p>講師:パソコン・授業で使用する資料</p> <p>学校:黒板・電子黒板</p> <p>児童:筆記用具</p>			

<p>実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等</p>	<p>NPO 法人海に学ぶ体験推進活動協議会 理事 ④ https://www.cnac.or.jp/ ⑤ https://www.facebook.com/groups/333366646695675/ ① https://www.instagram.com/cnac2006/?__pwa=1 〒 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-1-10 第2虎の門電気ビルディング4階一般財団法人みなと総合研究財団内 NPO 日本安全潜水教育協会 (JCUE) ④https://jcue.net/ ・檀野清司 海との付き合いは、50 年近く前、東京水産大学で潜水部に入部した時からです。自分の命は自分で守る、決して他人の助けを当てにしない。しかし、困っている海の仲間には惜しみない協力を送る。シーマンシップを身につけ、海にチャレンジする体力・技術が求められ、厳しい練習を受けました。練習の甲斐あって、海中の世界になじみ、何回訪れても、飽きることのない世界を楽しんでいます。 ダイビングインストラクターを 20 年、海洋調査会社で潜水調査を 8 年、その後、縁あって青少年教育施設の運営にかかわりました。現在は、静岡県伊東市でジオパークの認定ガイドとしての活動も行っています。</p> 
<p>チーフ講師 感想</p>	<p>地域の魅力を考えることをベースに構成しました。まず、10 月に修学旅行で行った鎌倉、箱根の魅力と南房総の魅力をグループ毎に上げてもらいました。フォーラムメンバーから、活動エリアの魅力を紹介、オーバーツーリズムの問題も紹介し、地域の魅力を更に経験し、魅力的な地域にしてもらいたい、と締めました。担任の先生から海の写真や話題が欲しかったとの感想もあり、海の事例も入れるべきでした。 ☆印象に残った子どもの言葉や話題☆ 南房総の魅力は、あまり出ないと予想していたのですが、沢山の魅力を紹介してくれました。南房総で地域のことを学んでいることを感じました。ただ海に関する内容は少なかったもので、この点でも海の話題を入れる方が良かったと思いました。</p>
<p>実行委員 参加者 感想</p>	<p>地元の魅力の中に「岩井海岸」は出ましたが、「海」というワードは出ませんでした。海を含めた自然の豊かさは富山の子供たちにとってはとても身近であたり前になっているのかも知れません。加えて、本時の授業は子供たちが実際に行った鎌倉の話から始まりました。実体験があるからこそ、鎌倉の地域の良さについて語り、自分の地域の良さを見つけることができたと思います。 発言を促すと、主体的に答えてくれる子どもたちでしたが、改めて答えを導くヒントを与えながら話すことを心がけながら、プログラム改善していきたいと思う時間になりました。</p>



【海はかせになろう！～海の生き物とキミとのつながり～】

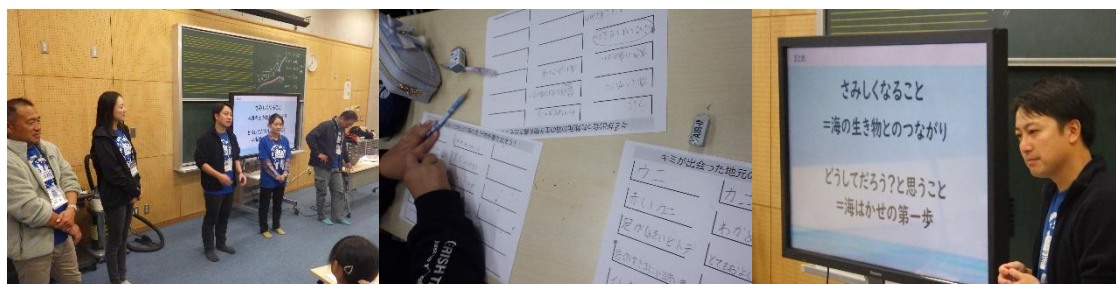
打合せ：牧田和紗 当日：香山正幸 参加者：神田優、平井和也、嵩倉美帆、今野莉奈

団体名・氏名	足立区生物園/自然教育研究センター 海上智央			
実施場所	南房総市千倉小学校 視聴覚室			
実施時間	10:35～11:30 ※12:00まで実施可（3・4時間目）			
実施クラス	4年1組22名、4年2組22名 44名			
ねらい・目標	<p>「キミと海の生き物とのつながりを再発見！」</p> <p>ねらい：海に面した日本や地元が存在する多様な生き物と環境について、児童の経験から関心を引き出す。そして、海の生き物と自分たちの暮らしがどのように結びついているかを再発見させ、海について更に探求したいという意欲を喚起する。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や地元の海には様々な環境があり、その環境毎に多様な生物が暮らしていることを理解し、海の生き物の名前から、それらが暮らす海の環境を想像できるという視点を持つ。 ・これまで出会った海の生き物との関わりを講師からの問いを通して明文化し、他者と比較する。 ・自身と海の生き物とのつながりを講師からの問いを通して再認識し、海への探求心を持つ。 			
プログラムの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物を紹介し、海の環境を想像する。 ・児童のこれまでの経験から出会った海の生き物を紙に書き出し、講師の問いを通して、生き物とのつながりを認識する。 ・授業を通してこれまでの海の生き物とのつながりを認識し、これからの海との関わり方を考える。 			
関連する教科と領域	総合 (南房総学)	海はかせになろう		
本時の展開	導入 5分	講師+フォーラム参加者自己紹介【全体】 海はかせとは？【全体】	海はかせの特技は、海の生き物の名前を聞くだけで、どんな海か当てることができる	フォーラム参加者も自己紹介の際に海にまつわるエピソードを一言入れる
	展開 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・海の環境と生き物について紹介【全体】 ・展開②の説明【全体】 	講師が厳選した海の生き物を紹介し、「この生き物の名前を聞いたらどんな海を想像できる？」	

	まとめ 25分	<p>これまで地元で出会った海の生き物を紙に書き出す【班で各自】@2分</p> <p>・時間になったら講師から問いを投げかけ、その問いに該当する海の生き物を班内で見比べ、班内でわかちあう</p> <p>・講師の問いかけで選出した生き物についてさらなる問いに対して各班で話し合い発表する</p>	<p>・書き出した中で一番好きな生き物は？</p> <p>・一番好きな生き物がいなくなったら自分たちの生活の中でさみしくなることは？</p>	<p>・フォーラム参加者は適宜声掛けしながら記入を促す。</p> <p>・フォーラム参加者はファシリテーターとして児童の議論と発表のサポートを行う。</p> <p>・班→8班(約5人)</p> <p>※学校は10班を想定していましたが、変更はできるということで現場で8班編成にしている。</p>
	まとめ 5分	講師からコメント	<p>海の生き物と私たちのつながりの重要性について話す。</p> <p>・現実に海で起きていること。</p> <p>・種の減少</p> <p>この授業で終わりではなく、海への関心、海で起きている問題を考えるきっかけになるようしめくくる。</p> <p>関心を持つこと、考えることが「海はかせ」の第一歩となる。</p>	
備品	<p>講師：パソコン、授業で使用する資料</p> <p>学校：黒板・電子黒板、机1台</p> <p>大房：ワークシート</p>			
実施団体・個人情報 ※リンク貼り付け等	<p>足立区生物園</p> <p>④ https://seibutuen.jp/</p> <p>自然教育研究センター</p> <p>④ https://www.ces-net.jp/</p> <p>・海上智史</p> <p>海なし県の埼玉県出身です。大学で干潟のベントスに出会い、その不思議で多様な生き様に魅了され、海の世界にどっぷりとハマってしまいました。現在は水族館飼育員や海の解説員として働きながら、各地の海で調査や観察会を行い、それらの教育普及や研究活動にも携わっています。</p> <p>海辺の環境教育事例集の編集やスタッフ研修支援など普及啓発の後方支援も行っていますので、海辺Fで多様な皆さんと意見交換できることを楽しみにしています。</p>			



<p>チーフ講師 感想</p>	<p>海辺 F でも初! な「学校教育へ行こう!」という面白い企画。完成されたプログラムより未完成なものをチームで完成させた方が絶対面白い! そんな思い付きで参加しました。正直、その過程はメッチャ大変でした。まさか歴戦のおっちゃんズからビシバシ徹底的に鍛えていただけるとは。でもそのおかげで、楽しく、かつ何か心に残るような、質の高い授業を提供できたと思っています。メンバーの皆様、香山さまありがとうございました!</p> <p>☆印象に残った子どもの言葉や話題☆</p> <p>地元の生物とのつながりを可視化する過程で、食べる以外にも「見た目や形がキレイ・好き」や「捕まえることが出てうれしかった」だけでなく、「好きな生きものがいなくなっても特に困らない」など、感情のつながりを可視化できたことが印象に残っています。</p>
<p>実行委員 参加者 感想</p>	<p><先生からの話・情報></p> <p>海は近いが、ほぼ海で遊んでいない。郊外学習で千田の磯での磯遊びは大変貴重な機会となった。千倉の磯は基本立ち入りができず、今回の千田の磯での磯遊びも漁協の許可や漁業権のある方の同行のもと特別に実施できている。海が近いながら、海を知らない現状、そんな中、今回の出張授業は大変有意義でありがたい。</p> <p><児童の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に前向きに取り組んでいた。また、こちらの話や問いかけの反応がよい。 「一番好きな生き物がなくなったら自分たちの生活の中でさみしくなることは?」に対する子どもたちの発表 ・イセエビ⇒食べられなくなる。漁業へのダメージ。 ・アジ⇒漁に行っても捕れない。漁業が困る。 ・カニ⇒小さい頃に捕って遊んでいて良い思い出。その思い出がなくなるのはさみしい。 ・イセエビ⇒見られなくなる。食べられなくなる。 ・カソオ⇒他の魚がいるから大丈夫(さみしくない意見) ・アワビ⇒売れなくなる。そうなるとお金が入らない。 ・イワシ⇒美味しいのに食べられなくなる。 ・ウツボ⇒食べられなくなる。好きな生き物が減る。近くで見られなくなる。 ・カサゴ⇒食べられなくなる。カサゴ釣りができなくなる。 ・ウニ⇒寿司屋で食べられなくなる。 ・イセエビ⇒食べられなくなるし、見られなくなる。 ・シイラ⇒かっこいい魚。それが見られないのはさみしい。 ・セグロイワシ⇒食べられなくなる。水族館で見られなくなる。 ・クラゲ⇒カッコいい見た目がみられなくなる。 <p><その他></p> <p>大房岬の磯でも磯遊びができるので是非、また海での活動に関して何かありましたらご相談くださいと伝えています。</p>



6. 海辺の環境教育 DAY「うみかつ」 ミーティング(11 日 PM)

南房総市立富山中学校へフォーラムの参加者が伺い、生徒たちと「海を守り活用する活動」について語り合う企画です。中学校の先生・生徒たちから、「南房総学(※)での活動・研究」についての発表を聞いた後、実践報告者に「各々の海を守り活用する取り組み」について各ブースで発表をしました。そこで、実践報告者として中学生に発表及びグループ対話を行いました。ブース数(テーマ数)は 24 で、中学生は約90名参加しました。

会場:富山学園(富山小学校・富山中学校)体育館

テーマ:私たちの海と日本の海

13:30 開会

13:40 キーノートスピーチ(先生・生徒に南房総学・富山学の取り組みについてお話しいただく)

14:10 実践報告者と中学生によるグループ対話①

14:35 実践報告者と中学生によるグループ対話②

※生徒は6~10名程のグループを作り、それぞれの実践報告者のもとで話を聞く

※実践報告者以外の参加者は、グループ対話の様子を回りながら見聞きする

15:00 まとめの時間

(中学生は聞いた内容や感想をまとめる、参加者はポスターをフリーで見る)

15:10 感想をシェア(スクリーンに映し出して全体の感想を見る or 生徒同士で感想をシェア)

15:20 中学生からお礼の言葉

15:30 終了

14:10~14:35 ①クール

NO.1~5…学術的対話:専門的な話題や研究事例など NO.6~12…実践的対話:地域での取り組み

1	NPO 法人海に学ぶ体験活動協議会/特定非営利活動法人 日本安全潜水教育協会	檀野清司さん	タイドプールの魚たち
伊豆高原にある大淀(タイドプール)に現れる魚たちの様子を紹介します。 2020 年から 2025 年に撮った写真を集めました。			
5 年間のタイドプールで出会った魚たちを紹介しました。写真が多過ぎたため、全部を紹介できませんでした が、海の魅力を伝えることはできたかと思います。 子どもの様子:興味深く聞いてもらうことができました。			

2	笹川平和財団海洋政策研究所	小原朋尚さん	海で見つける新しい自分
海という自然環境の中で行うマリンスポーツは、仲間と協力しながら自然に向き合う体験を通して、自己肯定感・判断力・協働性などを育む冒険教育の格好の舞台です。本講演では、冒険教育の基本的な考え方とマリンスポーツとの親和性、実践プログラムの設計例、そして会場でもできる簡単な体験を交えながら、「海を教室にする」新しい学びの可能性を紹介します。			
身体運動を伴うワークを中心に実施したが、限られた制限時間の中でも最後まで諦めずにチャレンジし続ける姿勢が印象的でした。 また振り返りでも「今ここ」の思いを何名かに言葉にして共有いただけたことで、同じ体験をした仲間でもそれぞれ違った考え方や捉え方があるんだと気づき、それこそが未知の自分との出会いであることに気づいていたかかと思えます。 子どもの様子:二人一組でのワークで互いにアイデア、考えを伝え合いながら諦めずにチャレンジし続けていたこと			

3	NPO 法人 黒潮実感センター	神田優さん	魚の歯 ～餌を食べるための形と機能～
釣りやシュノーケリング、ダイビング、水族館で魚を見ることは多いと思いますが、「魚の歯」って詳しく見たことありますか？生き物の形には意味があります。今回は魚が餌を食べるための形と機能に限定し紹介したいと思います。			
最初にみんなが思い浮かぶ魚の歯の絵を描いてもらった。全員が先の尖った三角形のものだった。魚の歯にこれまで関心を持っていなかった子供達からは、歯ってこんなに多様なんだって感じたようだった。 子どもの様子：コイが石を口に入れるのをみたことがあるけど、どうやって出すのですかっていう質問に対して、実はコイは咽頭歯で石の表面に付着した藻を削り取って食べられていることを伝えることができた。			

4	鶴岡市立加茂水族館	里見嘉英さん	クラゲの魅力とその生態 ～クラゲはなぜ人気なのか。クラゲという生きものの魅力について～
加茂水族館でクラゲの展示を始めてから、今年で 29 年目になる。クラゲの人気の理由は見た目の美しさやゆったりとした浮遊感のある姿のみならず、謎の多い生態にもあると考えられる。不思議で謎の多いクラゲの生態について紹介したい。こうした話を聞くことによってクラゲのことをもっと知りたい、自分で調べてみたいと思ってもらえるような学習活動を行っている。			
対話の初めに、鶴岡市立加茂水族館はクラゲが売りの水族館だということを説明し、加茂水族館を知っているかどうか聞いてみたところ。参加者 9 名全員が行ったことはないし、加茂水族館という名前も聞いたことがないとのことだった。懇親会時に富山学園の校長先生から伺った話によると、クラゲの話題は生徒たちに人気で希望者が多く、人数調整に苦労したとのことだった。クラゲは中学生にとって魅力的な対象なんだなあと改めて感じた。 子どもの様子：参加した生徒 9 名が誰も加茂水族館のことを知らなかったという事実。			

5	アフタースクールワオキッズ上末吉園	坂井遥さん	東京海洋大学は海のことしか勉強しないの？
東京海洋大学でどんなことを学んだのかお伝えします。海に対して自分たちができることを考えるためには、まずは海のことを知る必要があります。東京海洋大学に通うということは、その手段の一つとなります。東京海洋大学ではどんな知識を得られるのか、そこを具体的にお話したいと思います。			
小グループで子どもたちの顔や反応を見られる距離感での発表で、緊張もありましたが子どもたちの素直な反応が感じられてとても楽しかったです。他の発表者の方と声が干渉することもなく、自分の発表に集中することができました。 子どもの様子：大学の学祭用で作ったウツボの絵に興味を持ってもらえ、何匹くらいの絵があるのかという話題で盛り上がりしました。			

6	千葉県立中央博物館分館海の博物館	奥野淳兒さん	房総の海の生きものの多様性を調べ、伝える
千葉県の自然史博物館として、房総半島の海の生きものの顔ぶれを調べ、その多様性の高さをどうやって伝えてきたか、という事例を紹介します。			
博物館の利用が少ない中学生世代に博物館の仕事を紹介できたのは有意義でした。県立ですが南房総市での活動は少なく、この地域での調査を進めていきたいと思いました。 子どもの様子：話をよく聞いてくれていたと思います。小学生に比べて感情を表に出さないの、どの話題が印象に残ったのか、こちらからは判断できませんでした。			

7	川村学園女子大学 / Interactive Museum and Institute center	新和宏さん	全房総フィールドを活用した海の学びと探究プログラム
千葉の県立博物館の自然系研究者として(～2019)、千葉市科学館の幹部として(～2024)、また海の学びエキスパート・コーディネーターとして実践してきた海に関わる様々な実践事例を報告する。			
南房総地域はもとより房総は非常に生物多様性が豊かな場所であり、その背景には地理的、海況的な特徴が大きく影響しています。暖流と寒流が交錯する場であることから南と北の生物相が分布しており、さらに海岸線も多様な地形を呈しており、加えて、海底地形も他の地域には無い浅海から深海までの地形に関係した生物相が分布しているという特徴があります。そういった特徴を中学生達は改めて認識したようでした。			
子どもの様子：豊かな自然環境と開発等の関係に関心がある中学生が多かったのが印象的でした。			

8	NPO 法人ゼリジャパン	羅先坪さん	南房総市での藻場再生の実証実験
NPO 法人ゼリジャパンは 2023 年より、南房総市の大房岬自然の家と連携し、大房岬での藻場再生に向けた実証実験を開始しています。主な取り組みは、①アオリイカの産卵床設置、②富山、富浦2中学校とビーチクリーン活動、③富山中学校での出前授業、④ワカメやアラメ・カジメの種苗育成実験などです。これらの活動を通じて、地域の海洋環境保全と持続可能な資源管理を目指しています。			
初めて中学生の前に事業紹介して、対話しました。富山学園の別の学年の生徒が以前弊団体の講話を受けることや、ビーチクリーンをしていましたので、今回の生徒さんもある程度で藻場再生のことを知っていました。学生さんは真剣に紹介の内容を聞いて、藻場再生や帆船みらいへ、万博ブルーオーシャンドームのことを興味津々でした。			
今後ぜひ一緒に当地藻場再生の活動しようと思います。貴重な機会をいただき、感謝いたします。			
子どもの様子：生徒さんが真剣に紹介の内容を聞いて、興味を持っている感じでした。私の質問に対しても真面目に回答いただきました。ただし、午前の無邪気な活発な反応くれた小学生に比べて、中学生さんが少しやりとりが控えめに感じます。私に対話しやすい雰囲気づくりができていなかった部分もあると反省しております。			
今後もっと生徒と深く交流したいと思います。			

9	かごしま水族館	柏木由香利さん	雨の日や海に出られない時に役立つ実践 ～雨の日対策！磯の生きもの陣取りゲーム～
フィールド学習実施にあたって、必ず頭を悩ませる問題が、「海に出られない時どうするか?」。今回は、これを解決するために室内でも楽しく磯について学べる(磯の生きものを次はもっと観察したくなる)ゲームを紹介します。			
短時間だったので、こちらの実践披露だけで「対話」に全然ならなかったのが、猛反省。			
もう少し 10 分 15 分で実践内容がわかるようにシナリオをつめるべきだった。(レポート何書いたらいいか困ったはず。)実践は楽しんでいたようでよかったですが…			
子どもの様子：ダイダイイソカイメンを覚えた			



10	海藻おしば協会/ 東戸塚メディカルクリニック	高山優美さん	医療者として自然を伝える ～医療・命・自然・伝える～
医療現場での仕事をしながら、趣味として始めたダイビングで海・自然・伝える事の大切さを学んだ。気候変動、大気汚染がない地球環境を願うのは健康につながるから・・・。			
いろいろ中学生の話や質問がきけて楽しかった。今回関心をもって来てくれた中学生ありがとう。自分が中学生の頃は医療に関心などなかったの、今回話を聞きにきてくれた富山学園の中学生にあえて嬉しかったです。これからの人生を応援しています。			
子どもの様子：医療と自然がつながる？というのか気になり参加した。扱い系などに海藻がつかわれていると思わなかった			

11	アップ サイクルアーティスト(tripchama)/ 環境アドバイザー	高野恵美さん	海の環境を守るために海から遠い 場所でもできることは何だろう 海なし県から伝える ～きれいな海を守ること～
私は海が好きなダイバーです。2024 年までは「地域おこし協力隊」として沖縄で暮らしておりました。ある時、きれいな海に海洋ゴミが海岸に大量に打ち上げられてくるのを見て、「大好きな海を守るために自分に出来ることはなんだろう?」と考えるようになりました。まずはビーチクリーン。けれどビーチクリーンで回収した海洋プラスチックは増えるばかり。一体どこから海洋プラスチックはやってくるのだろう。回収した海洋プラスチックはゴミとなるだけなのだろうか?海のない地域からできる海を守る体験活動とアップサイクルについてご紹介します。			
どの生徒さんも熱心にメモを取りながら考えを発言するなどしてくれて嬉しかったです			
子どもの様子：環境に関心はあるけれど資源をサイクルするということは、考える機会があまりないので、是非これからも海&地域&地球想いを続けてほしいです			



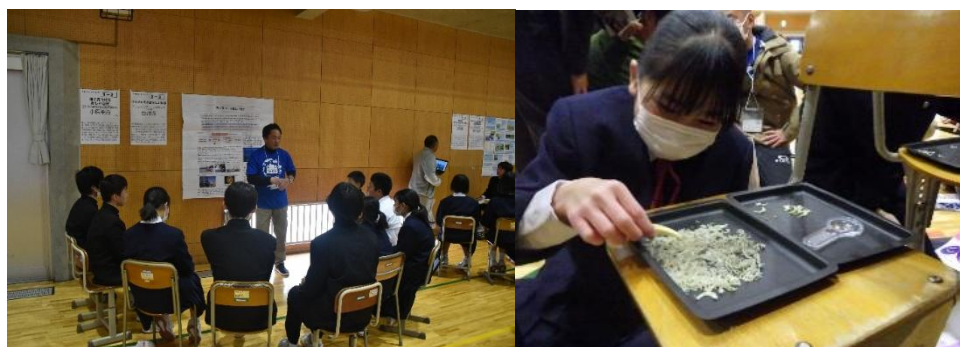
12	アクアマリンふくしま	興海佑さん	地域と海をつなぐ アクアマリンふくしまの取り組み
アクアマリンふくしまが地域で現在抱えている様々な課題に対して取り組んでいる展示や、お客様に環境保全の大切さを伝える体験活動について紹介する。			
当館がやっている環境再現展示についてと地域のこどもたちに向けて実施している教育活動について、興味を持って聞いてくださっていて、お話しさせていただき良かったなと思いました。水族館業界と水族館でできる取り組みに少しでも興味を持っていただけるきっかけになれば嬉しいです。			
子どもの様子：水族館の展示をどうやって作っているのか知らなかったの、水族館に行くときに展示の見方を変えてみたいと思ったという感想をいただきました。また、水族館でも地域のためにいろいろできることを初めて知ったという感想もいただきました。			

14:35~15:00 ②クール【実践報告者&テーマ】

NO.1~5…学術的対話:専門的な話題や研究事例など NO.6~12…実践的対話:地域での取り組み

1	海あそび舎/ LAB to CLASS	八木澤潮音 さん	「死の海」から海と人との関係を考 える
<p>福岡県北九州市の海「洞海湾」は、80年ほど前、公害汚染によって生き物が1匹も住むことができない「死の海」でした。企業や行政、専門家・住民の連携による取り組みや、森川海を繋ぐ水の循環によって、洞海湾はきれいになりました。今、北九州市の海には新たに風車が立っています。風車は自然の力でエネルギーを生み出すため、持続可能な良い方法に思えます。自然環境へはどのような影響が考えられるでしょうか？</p> <p>工場や生活排水による海洋汚染に対し、「役場の人(行政)」「学校の先生」「研究者」「工場の人(企業)」の立場に分かれ、何に取り組めば良いかを考え発表しあいました。海を汚しているのは自分たちの活動によるもの、でもその活動によって経済や生活が成り立っている、という違和感に気付いたときの様子が印象的でした。持続可能と思えるものでも、目に見えない場所への影響まで含めて考える必要があると実感してもらえれば嬉しいです。</p> <p>子どもの様子:・工場の人役割を担った生徒が「自分たちが一番海を汚しちゃってる原因なので」と踏まえた上で出来ることを考えていました。</p> <p>・先生の立場の役割を担った生徒が「児童に海洋汚染を教えると同時に、自分も生活排水を流していることをどうにかしたい」と言っていました。</p> <p>・生徒たちが海洋汚染を自分ごとと捉え、より具体的な行動内容を考えていたことが印象的でした。</p>			

2	アフタースクール ワオキッズ上末吉園	坂井遥さん	ウツボと向き合った3年間
<p>3年間海に潜ってウツボの研究を行った体験談をお伝えします。3年かけて分かったことはほんの少ししかないけれど、その少しの積み重ねは確実にウツボを守ることに繋がっていきます。この話を通して、南房総学で学んだこと・行ったことは、確実に価値があるということを再認識してもらうきっかけになればと思います。</p> <p>とても真剣に話を聞いてくれる子どもたちで、発表をしている時も積極的に質問をしてくれて、対話に近い発表となりました。ウツボのどういったところに興味を持ってもらえるのかということもわかり、私も勉強になりました。</p> <p>子どもの様子:ウツボの話をしたが、ウツボが食べられるか、どんな料理で食べると美味しいかという話で盛り上がりました。</p>			



3	足立区生物園/ 株式会社自然教育研究 センター	海上智央さん	海のゆりかご」 復活の鍵はどこに？ ～水槽実験で探るアマモ育成の最適解～
<p>足立区生物園では、水族館でも困難なアマモの人工飼育に成功し、種子を得ることもできました。この研究の肝は、決して高価な物や高度な技術ではなく、水槽での地道な成長記録という科学的な探究活動です。地域の海を守り、活用する皆さんの活動でも、様々な”分からないこと、誰も知らないこと”に直面するでしょう。この報告では、観察と記録がその解決の鍵になるというヒントをお示します。</p> <p>アマモは各地で再生が進められている重要な海の植物ですが、意外と分からないことばかり。ここ富山中学校や周辺地域でも再生の試みが進められているので、ニーズが合ったからか、参加した中学生は抽選で決まったと聞きました。海辺 F 参加者の方も多く見に来てくれて、もっと見やすいポスター形式にしてくれば良かったと反省しています。今回発表した内容は足立区生物園 HP でも公開しているので、ご興味あればご覧ください 「足立区生物園 HP 2023年 第 67 回 JAZA 水族館技術者研究会[一定環境下におけるアマモ成長量の周年変化]」</p> <p>子どもの様子:「アマモの根は食べると甘い?」という言葉にキチンと答えられるように地域や季節毎のアマモの食レポをしようと決意しました。</p>			

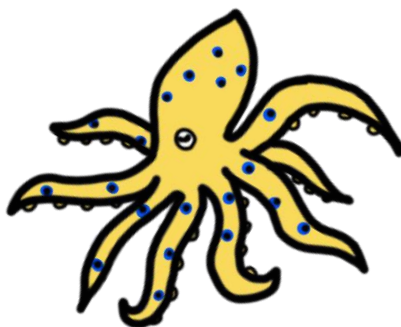
4	川村学園女子大学 / Interactive Museum and Institute center	新和宏さん	生物多様性の宝庫 ～素晴らしき私たちの房総!～
<p>報告者の専門領域である古生物学及び海洋環境学の観点から 私たち房総の豊かな生物多様性等について解説報告する。</p> <p>今回は実践編と研究編の2つを受け持ちました。最初の実践編でも取り上げましたが生物多様性が豊かな房総ならではの自分自身の研究成果を共有することで、我が房総が生物相の観点でも地理的観点でも多様で豊かであることを中学生に伝えることができました。子ども達が自分達が暮らしている地を様々な観点から知り、そこに誇りを持ち、自然や環境の維持を「自分ごと」としてとらえていただけるよう引き続き指導していければと考えています。生物多様性や環境問題などの難しい課題について生徒の皆さんは熱心に聞いていました。私からは環境や生物のこれからを考える際は、自分ごととして考え、取り組むことが必要だ、ということを伝えました。</p> <p>子どもの様子:実践編と同様に豊かな自然と環境をいかに維持していく必要があるのか、そのために個々人が何をどのような形で取り組んで行けば良いか、等について関心があるようでした。環境について考えたり、自分自身の取り組みなど、なかなか難しいことだが、これからの地球や生物多様性のことを考えていきたい。</p>			

5	千葉県立中央博物館 分館海の博物館	奥野淳兒さん	海のカニ?山のカニ? ーアカテガニから見た海辺の環境
<p>海岸付近に暮らす人には馴染みの深いアカテガニについて。今やレッドデータブックにも名を連ね、一部の地域では絶滅が危惧される生きものです。なぜ彼らは姿を消したのか。生きものの性質を知るだけでなく、海辺に暮らす人々の声からもそのヒントは得られるはずです。</p> <p>海と陸を行き来する生き物であるアカテガニを通して、境界域の保全の大切さを伝えられたかな、とおもいます。</p> <p>子どもの様子:ギリギリまで話してしまい、質問を受ける時間がなかった</p>			

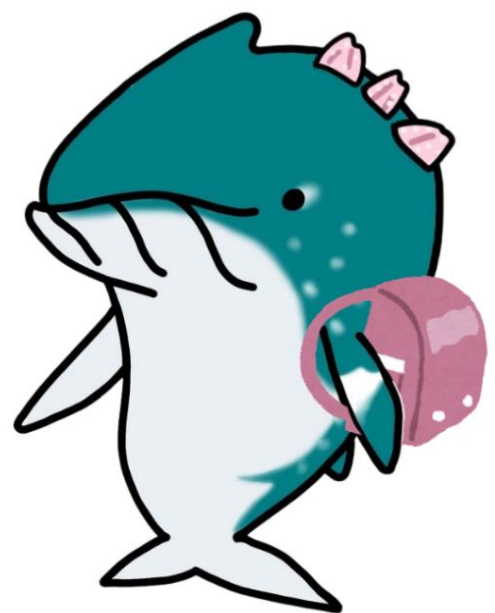
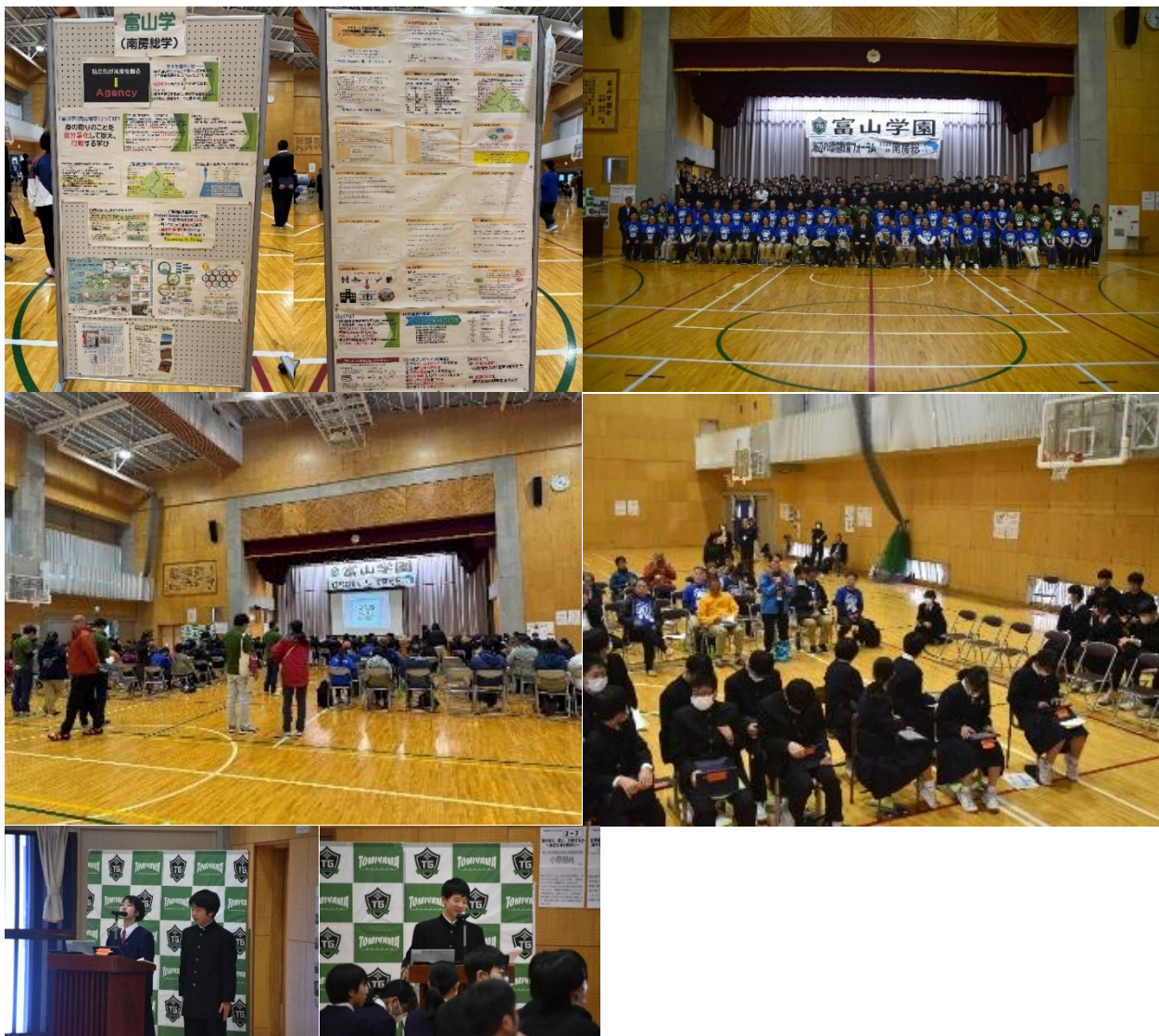
6	海に学ぶ体験活動協議会	檀野清司さん	ダイバーは伊豆が好き？
ダイビングブームはどのように始まったか。ダイバーのマナーはどう作られたのか。伊豆はダイバーをどのように受け入れたか。			
漁師にとって密漁者だったダイバーが、どのようにして、お客さんとして認められるようになったのか。なぜ伊豆半島に潜りに行くのかを、紹介しました。一方的に話してしまった気がします。			
子どもの様子：集中して聞いてもらったと思います。質問がなかったのが少々気になりました。中学生に合わせた内容や話し方を工夫する必要があると感じました。			

7	笹川平和財団 海洋政策研究所	小原朋尚さん	海を知り、感じ、行動する力 ～身近な海を教材に～
海洋リテラシーとは、海の仕組みを理解し、海とのつながりを自分ごととして考え、行動する力のことです。本講演では、UNESCO や Ocean Decade における世界的な潮流を紹介するとともに、南房総の海を題材としたクイズや教材例を交え、海洋リテラシーを学校教育・地域活動にどう活かせるかを具体的に提案します。身近な海を“教室”に変える実践的な視点を共有します。			
海洋リテラシーについて初めて知った生徒さんたちではあったが、その概念や 7 つの重点原理について関心を示していただき、クイズにも積極的に取り組んでいたことはとても嬉しかったです。南房総に因むクイズも出題しましたが、かなりの難問?!だったのか地元のことで案外知られていないんだなと意外でした。			
子どもの様子：クイズには社会や理科で学んだ知識も多くあり、必死に思い出している様子やウロ覚えでもなんとか答えようとする姿勢が印象的でした。			

8	NPO 法人 黒潮実感センター	神田優さん	「海の中の森づくり」 ～「人と人」、「人と海」との関係性について～
生息する魚種 1,150 種以上と日本一の魚類相を誇る高知県西南端の柏島で、2000 年頃から進行する海藻がはえなくなる「磯焼け」と、それに伴う海洋生物相の変化。海を生業の場とする漁業者とダイビング業者との衝突から、「人と人」、「人と海」との関係性を改善してきた 25 年間の活動について報告します。			
高知県西南端の柏島で、アオリイカが獲れないことを、増大するダイバーのせいにして衝突した漁業者とダイバーとの関係修復に向けて、イカ減少の一因として磯焼けがあるという仮説から、ダイバーと漁業者が協働してアオリイカの人工産卵床を設置し、イカを増やす取り組みを通じて、両者の関係修復を達成した経緯について紹介した。生徒達は膨大な数が産み付けられた産卵床に驚き、またどうやれば藻場が再生できるのか、その取り組みについて興味深く聞いていた。			
子どもの様子：富山でも行っているアオリイカの産卵床と、柏島で行っている産卵床で同じく卵が生み込まれていても、圧倒的に数が違う理由はなんなのか。イカ好みの産卵床をどうやれば作ることができるかどうかは、「イカの気持ち」になって考えること。キーワードはなぜ?どうすれば?という問いを立てて、それについて様々な仮説を立てながら観察と実験を繰り返すことで結果を出していくと言ったお話しをした。			



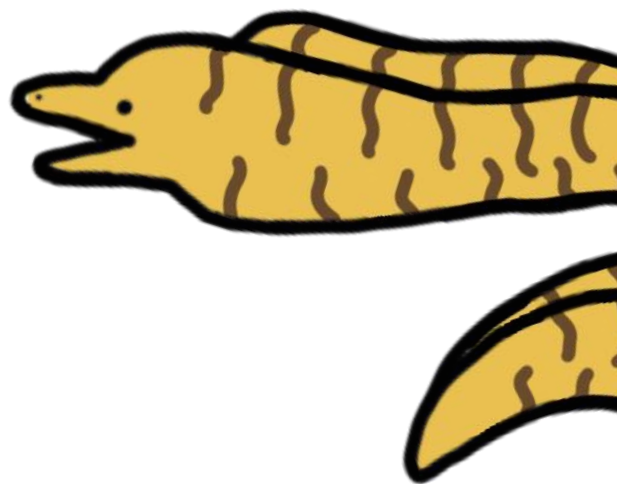
9	鶴岡市立加茂水族館	里見嘉英さん	鶴岡市立加茂水族館の海ごみ学習会の開催や地域連携の取組み
<p>世界中で問題となっている海洋ごみは山形県でも問題となっている。海洋ごみがなぜ問題なのかについて知り、対策について考えるきっかけを与える機会にしたいと思い取り組んでいる。環境を対象とした大きなテーマにあたるには、様々な団体と連携し合うことが重要と考えて活動を行っている。</p> <p>富山学園も加茂水族館と同様に、海に面した立地にあり、海岸に漂着した海洋ごみの問題は身近に感じているようで話しやすかった。加茂水族館のある日本海側の海岸では、対岸の大陸から漂着する中国語やロシア語や韓国語の表記のごみが普通にみられるということに興味を持っている様子だった。ガラパゴス諸島には人はほとんど住んでいないにもかかわらず、大量のごみが漂着していて、中には漢字表記のごみも見つかるという話にも興味を持っているようであった。</p> <p>子どもの様子：発表の感想に書いたように、世界は海でつながっているということを海洋ごみの漂着で実感できた点。</p>			
10	コーラル・ネットワーク	土川仁さん	ボランティア活動としての、サンゴ礁保全活動
<p>リーフチェックという、国際的なサンゴ礁保全のための調査を、25年以上ボランティアで続けてきています。リーフチェックでは、地域ごとに調査チームを組んで、年に一回、同じ場所で調査を行っています。ボランティアという立場での保全活動をする、地域ごとのチームの違いなどを紹介します。</p> <p>ボランティアとして、の部分にフォーカスした話にしたが、どういう活動をしているのか、どういうきっかけで、この活動を始めたのか、のあたりは伝えられたのかな、と思う。</p> <p>子どもの様子：熱心に聞いてくれているのだが、反応がほとんどなかった。</p>			
11	きしわだ自然資料館	柏尾翔さん	チリメンモンスターから見る海の生物多様性
<p>「チリメンモンスター」は、ちりめんじゃこの中に混じる小さなタコやイカ、カニの幼生などの混獲生物の総称で、これらの混獲生物をちりめんじゃこの中からより分け、形態を観察する過程を「チリメンモンスターさがし」と呼んでいる。ちりめんじゃこの中に混じる珍しい生きものを探す作業は、遊びのような感覚で海の生きものの多様さやその生きものたちがすむ環境について、興味・関心をもち、知識を深めるきっかけとなる。</p> <p>みなさん熱中してくれていました。準備していた内容をすべて伝えることができなかったのは残念だったのですが、ただ楽しむだけではなく、自分のすむ地域の魅力を再確認する機会になってくれたのであれば嬉しい限りです。</p> <p>子どもの様子：これって「イセエビの子ども?」、「カニのメガロパ?」というふうに、自分でしっかり調べてから質問してくれたので、とても嬉しかったです。</p>			
12	海遊館	井上智子さん	海遊館と大阪湾の生きものたち
<p>海遊館のコンセプトは、「地球とそこに生きるすべての生き物は、互いに作用しあう、ひとつの生命体である。」という考えに基づいています。大阪湾の環境学習についての取り組みや、海遊館の魅力についてお話しします。</p> <p>普段から南房総学に取り組んでいる皆さんなので、地域は大阪と千葉で変わりますが、話に対して大きく頷いてくれて、環境に対しての意識が高いことが伝わってきました。貴重な体験をありがとうございました。</p> <p>子どもの様子：海ゴミと生きものつながり</p>			



7. 懇親会②

大房岬自然の家の大食堂で行われた懇親会は、地元の食材を利用したジビエやお刺身などの料理が並び実施しました。来賓として、南房総市長石井裕様、南房総市教育長三幣貞夫様をお迎えしました。出張授業を行った学校3校からも校長先生をはじめ、先生方にお越しいただきました。また、教育委員会からもご参加いただき、活発な交流の場となりました。

出張授業の報告は各授業5分程度で、学校での子どもの様子や、授業を通して感じた課題や成果の発表を行いました。



8. 海辺のカタカリバ～環境教育と学校連携～(12 日 AM)※パネルディスカッション

毎日小学校で活躍されている現役の先生 2 名、沖縄県で、学校現場で環境教育を実践しているエキスパート、学校と地域・企業を繋ぐ橋渡し役、以上 4 名に、環境教育と学校連携のリアルをお聞きました。共感するときには、「いいねカード」をあげる方式の「参加型」で進めていきました。パネリストへは、学校連携の取り組みでの課題や学校と繋がる方法について質問があがりました。

① パネリスト 南房総市立富山小学校教諭 宇畑比路美先生

② パネリスト 南房総市立富浦小学校教諭 鈴木惇史先生

「学校と外部講師がつながろう!～環境教育を学校だけで抱え込まないために～」

昨今、SDGs やキャリア教育、ICT 活用など学校で学ぶ内容が多様化し、環境教育もその一つです。

こうした学びの充実には、外部講師とのつながりが必須です。

現場では、実際にどのようにして連携しているのでしょうか？

外部講師との連携を図るための取り組みや課題について、現場の声をお聞きます。

③ パネリスト しかたに自然案内 代表 / 海辺の環境教育フォーラム通年事務局 鹿谷麻タさん

「どうやって学校と繋がってきたのか～しくみ、プログラム提案、実施のコツと課題～」

環境教育の実践者からは「学校に関わりたいけれど難しい」という声をよく聞きます。

実際に学校現場で環境教育や自然体験活動などを行う際、どのようにして学校や先生方とのつながりを築き、実施しているのかについてお話いただきます。

④ パネリスト アクトインディ株式会社 取締役 小土井孝文さん

「教育委員会とつながるためのコツと課題～学校と地域をつなぐために橋渡し役の現場から見えること～」

学校と外部講師をつなぐ“もう一つの現場”があります。

多くの学校に体験活動を届けるべく教育委員会や学校と繋がり、地域の実践者との調整を行う。

活動資金を獲得する。そんな橋渡し役の立場から、学校との関係づくり、実践者との信頼構築、そして継続的な仕組みづくりのリアルを語っていただきます。

⑤ コーディネーター 南房総市大房岬自然の家所長 神保清司/

海辺の環境教育フォーラム 2025 実行委員長



9. 閉会式(12 日 AM)

学校教育との連携をテーマに2泊3日のフォーラムを開催しました。「環境教育と学校教育を連携させるためにこれからしたい(継続含む)こと」を話題にして振り返りを行いました。それぞれ、収穫と課題が出てきたようでした。

大房岬自然の家がコーディネーターとなり、今後も南房総市内の学校や他の学校へ授業ができるよう、引き続きネットワークを深めていくという思いが実行委員長の神保氏から述べられました。

海辺の環境教育フォーラムの次回開催地は挙手制です。通年事務局長の鹿谷氏の挨拶の中で挙手を求めると、次回は「船上・海上でサイエンスコミュニケーション」をテーマにと提案がありました。次回の楽しみが増えたところで閉会となりました。



☆おまけ写真☆

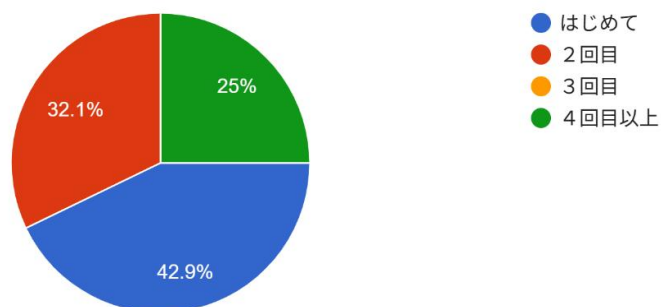


5. 事後アンケートからの声

参加者

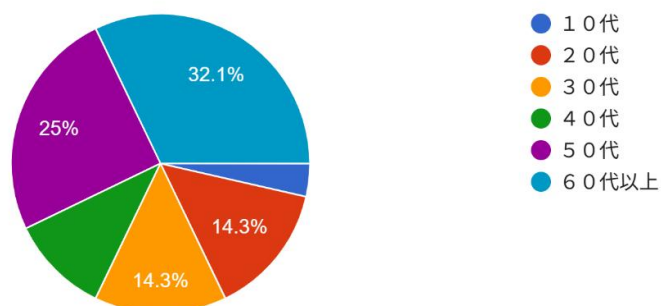
何度目の参加ですか？

28 件の回答



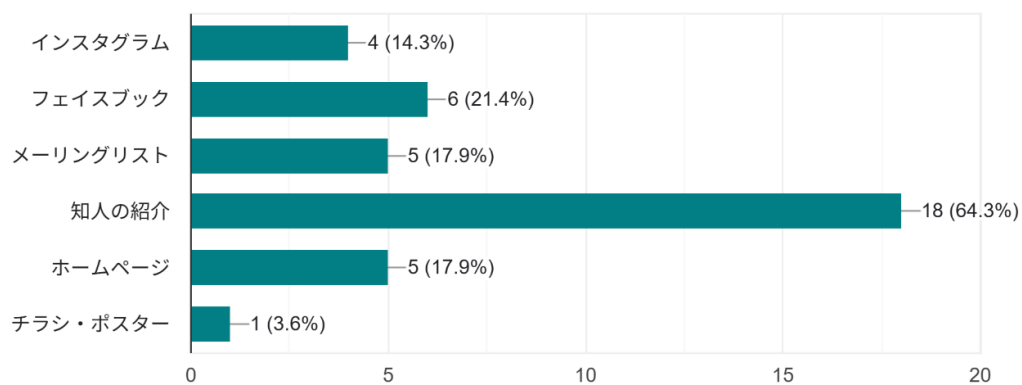
年齢を教えてください

28 件の回答

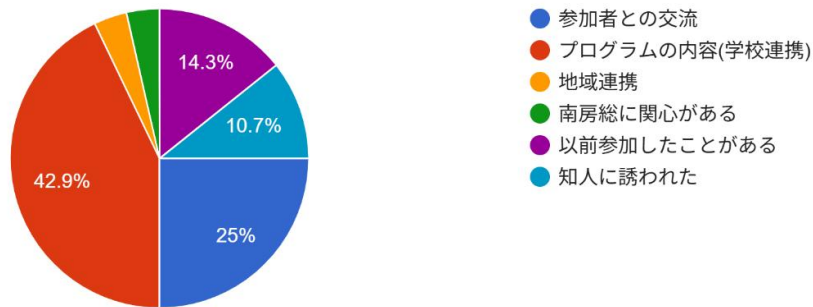


今回のフォーラムを何で知りましたか？

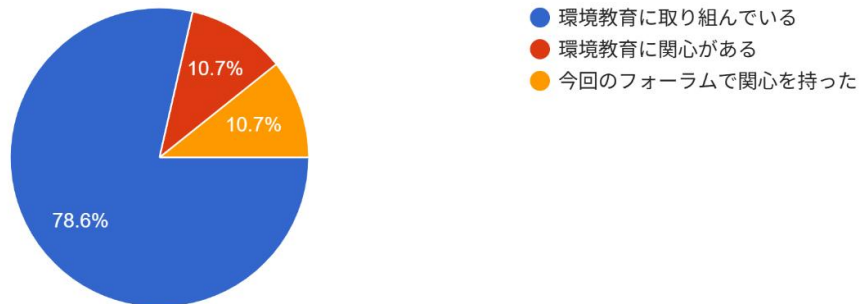
28 件の回答



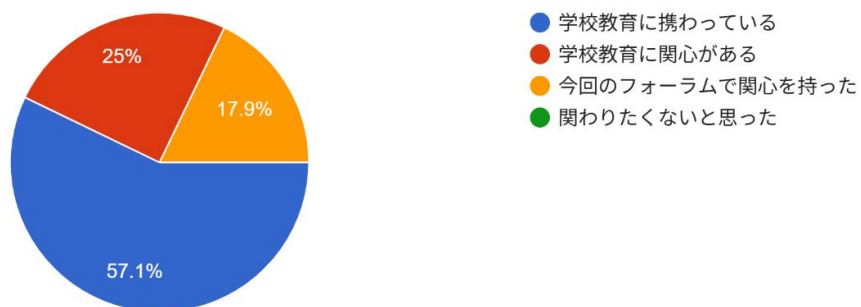
フォーラムに参加した目的に近いものを教えてください
28 件の回答



環境教育との関わりに近いものを教えてください
28 件の回答

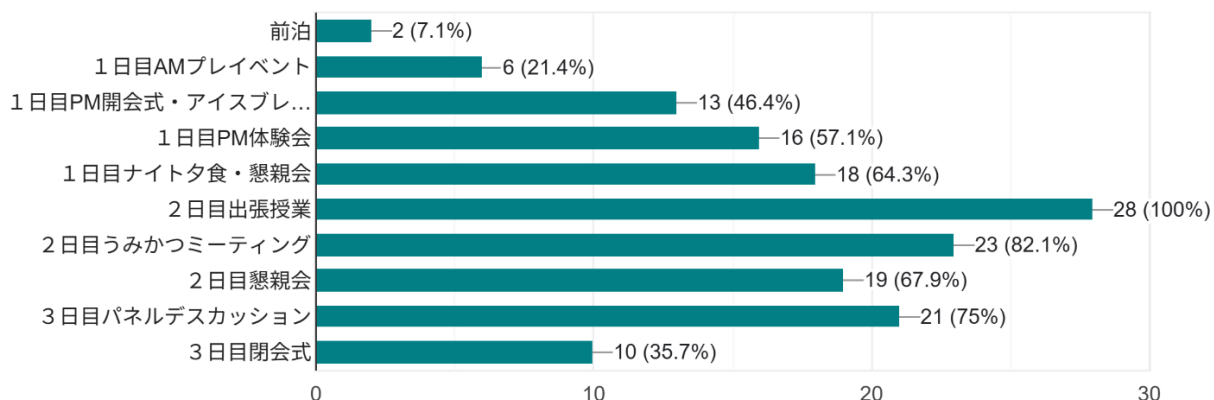


学校教育との関わりに近いものをおしえてください
28 件の回答



良かったプログラムはどれですか(複数回答可)

28 件の回答



こんな企画が欲しかった！

- ・次回帆船みらいへでフォーラム
- ・大満足なプログラムでした！
- ・授業やうみかつを受けた子どもたちの感想文を見たかったです。何が響いたのか、どう受け取ったのか、反応を知りたかった！
- ・3日間盛沢山でしたので、特にありません！
- ・うみかつミーティングも各内容の簡単な説明が欲しかったです
- ・特にはないです。
- ・大房岬の下を、希望者スノーケル or コーステアリング！
- ・学校との連携や、学校での授業は、自身の最大のテーマなので、今回は、本当に参考になりました。最高でした。強いて言えばですが、時間内では、難しかったと思いますが、参加者間で「協働」や、「コラボ」の、情報交換がフェイスツーフェイスで、できる企画や、時間があったら嬉しかったです。
- ・全員と話することができなかったのが、ゲームやクイズでお互いのことを楽しく知る企画
- ・プレ企画でないところで少し海に行ければよかった
- ・南房総学について興味を持ちました。もっと詳しく知るための企画があればと思いました。
- ・アウトプットだけでなく、参加者同士で今やっていることや考えていることを伝え合う場（ミニワークショップやワールドカフェ、ポスターセッションなど）。
- ・今回は難しかったと思うが、欲を言えば参加者が参加できるうみかつ授業

今後のフォーラムで取り上げて欲しいテーマはありますか？

- ・参加者同士の勉強会
- ・学校教育との連携、インタープリテーション
- ・環境教育で食べていくためには
- ・今回は学校教育との連携でしたが、今後は動物園水族館との連携はいかがでしょうか？
- ・島
- ・ワークショップのいろいろ
- ・自然環境、地球環境とエネルギー問題（再エネ等）の関係を扱ったテーマ
- ・森里川海を繋いだ視点
- ・企業や、行政との「連携」・安全とリスクマネジメント・「食育」など。

・海が身近にない人たちに、どうしたら海に行きたいと思ってもらえるか、環境問題に関心を持ってもらえるかを考えるテーマ

・生物系以外の海洋科学や船、水産と環境教育/サイエンスコミュニケーションと環境教育

・【安全】今回、前回と「安全」に関する時間が無かったですね。「安全」は基本のキなので、すでに完結している？取り上げる必要はない？どう取り組むか、どう取り込んでいるか？どうなのでしょう？！

・地域連携

・"改めて、みなさんが行なっている海の環境教育は

・海の何を伝えているか？

・どういう手法で伝えているか？

・何をゴールにしているか？

みたいなことをお互いに洗い出して並べてみると、海の環境教育で充実している部分、これからの部分、などの全体像が見えてくるかも。"

・海に関する防災、減災、備え

実行委員・チーフ講師・うみかつ実践報告者へメッセージがあれば、どうぞ！

・大変勉強になりました！

・どうもありがとうございました。大変勉強になりました！

・大変刺激のある充実した3日間でした。事前準備から当日まで本当に大変だったと思います。ありがとうございました。

・初めてフォーラムに参加して、学生がプロに混じって活動しましたが、みなさん気さくで何より話が面白かったです。来年度からイベントを開くにあたって、講師として来ていただける方や広報の方法など、あげたらキリがないくらい学びがありました。実行委員の皆さんのおかげで前泊を合わせた4日間楽しむことができました。ありがとうございました。

・実行委員の皆さまのコーディネート力と気持ちの良い運営に本当に感謝です！開催に漕ぎつけてくださりありがとうございました。大きなうねりが未来につながりますように！平日開催も良かったです。

・"実行委員の皆さまが居てくれたからこそ。学校との調整、参加者からの対応など本当に大変だと思いますが、頑張ってくださいありがとうございます。久しぶりに参加でき(平日だから参加できた)充実した時間を使えました。学校の先生方や教育委員、市長の皆さまの受け入れ態勢もありすごい地域だと思います。ありがとうございました。"

・様々な立場で活動される方々から今後の活動のヒントをいただきました。ありがとうございました。

・実行委員の皆様、特に牧花嶋さん牧田さんはいろいろご苦労されたと思います。おかげさまで楽しい3日間でした！感謝してます！

・みなさんの熱意と知識、技能に脱帽です。ありがとうございました。

・実行委員の皆様。大変お疲れ様でした。学校教育と環境教育の連携を長い間実践してきましたが、これほど噛み合っていた事例は知りませんでした。学校に対する事前の主旨説明や密な連絡による信頼関係あってこそだと思います。また、「南房総学」という地域の活動も今回の趣旨にマッチしていましたね。社会教育施設と学校教育の成功例として、ぜひ論文化し、次に続く人への道標にしたいです。

・本当に皆さまおつかれ様、ありがとうございました。とても良いフォーラムだったと思います。

・みなさん、場違いな参加者でしたが、親切に接していただきありがとうございました！

南房総、そして海のことがさらに好きになりました。素敵な出会いもたくさんあり、新鮮で刺激的な3日間でした！"

・実行委員本当にお疲れ様でした！

お陰様でしっかり学べ、楽しい時間を過ごすことができました！"

・実行委員の皆さん、本当にお疲れ様でした！

とても楽しい時間を過ごさせていただきました！"

・とても面白いお話をたくさん聞けて良かったです。みなさんの準備は大変だと思いました

ですがイキイキと活動されていて素晴らしいと思います"

・実行委員皆様の運営労力に深く敬服致します。

・実行委員の皆さん、大変お疲れ様でした。私も 1 年間色々と皆さんと関係を持って取り組んで行きましたが、今回の program が成功裏に終了したのは実行委員の皆さんのたゆまないご努力の賜です。

・大変お疲れ様でした

・実行委員の皆さまお世話になりました。

準備も大変だったと思いますがしっかりまとめてくださって本当にありがとうございました。すごく濃厚な 3 日間を過ごせました。

とても勉強になりましたし、ホットなうちに得たものを自分の物にしたいと思います。

(自己反省会)お疲れ様でした。"

・まずは、実行委員会の皆様、3 日間、本当に素晴らしい時間を過ごさせて戴きました。心から、感謝しています。本当に、本当にありがとうございました。皆様の、会場での「働きぶり」に、感激してしまいました。それを、束ねた神保所長、今回も、素敵な会場をご提供戴き、ありがとうございました。そして、チーフ講師と、実践報告者の皆様、きっと準備が大変だったと思いますが、どの授業も、どのブースも、児童・生徒さんたちの「笑顔」に、溢れていました。さすが、フォーラム仲間、ぶっつけてあの精度。最高ですね!!

・今回のフォーラムを準備・運営してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

様々な現場で活動されている方のお話を聞き、これから自分には何ができるかを考える大きなきっかけになりました。"

・ほんとうにお疲れさまでした。非常に充実した 3 日間でした。

・【ありがとうございました!】みなさんから頂いた"種"を、どう持ち帰るかは参加者の技量となるのでしょうか。

2025 年の種が今後の海 F で融合してゆくさまが楽しみです。

・実行委員・チーフ講師の皆様へ、ありがとうございました。良い経験ができました。

・実行委員の皆様、キビキビとした動きがとても素晴らしく、感動しました。いつものフォーラムよりも少人数のメンバーが、パワーをピシッと合わせて作り上げてくださった印象です。小中学校への出張授業のメニューのバラエティとその中身の充実具合も素晴らしく、いろいろな授業や発表をもっとじっくり聞きたい!と思いました。学校の先生方や教育委員会などとの連携も素晴らしかったと思います。お疲れ様でした、本当にありがとうございました!

・実行委員の皆さま、学校や教育現場との連携・調整、フォーラムの運営から駅までの送迎まで、いろいろとありがとうございました。

・実行委員の皆様、本当にありがとうございました。初の学校授業は難しい部分もあったと思いますが、貴重な体験をさせていただきこれからの活動につなげていきたいと感じました。お疲れ様でした。

チーフ講師の皆様、さすがです!実践を見学できる機会はないので、生徒の反応を見ながら対応される会話術など参考にさせていただきます。私も生徒として参加したかったー。

うみかつ実践報告者の皆様、短時間で参加者と対話しながら伝えたいことを伝える技術は滑らかで素晴らしかったですね。ゆっくり見たいと思うので、また来年も機会があれば実践お願いします。

南房総と自分の地域を比べて、それぞれの良さはどんなところですか

・こちら自然が良いです。

・自然環境と人

・南房総は磯があり、生き物が多様で教育にも向いていると思いました。新地町や相馬市は発電所が近くにあり、エネルギー学習が行われています。自然環境、特に未来の発電やエコなエネルギーは本当に自然環境に優しいのかを考えるには良い環境だと思います。

・住んでいる人、子どもたちに関わっている人の空気感が良い!

・それぞれの地域で最大限地域の良さを活かして子どもたちに関わろうとする大人がいる

・南房総:自然が豊か、のどか、様々な生き物が訪れる

自分の地域(千葉県北東部):ゆかし、歴史を感じる、のどか"

・山も海も近い自然と人のつながりが大変すばらしいです!

自然があたりまえにあるところ。子どもたちが、それも含めて「地域、ふるさと」を誇りに思える教育がなされているところ

・南房総市は、外房と内房の海岸線を持っているところが良いですね。海洋生物相の比較など、様々な展開が期待できそうです。地元勝浦は漁業が盛んで、漁業者からの情報提供が海洋教育の礎になっています。南房総市ではどうでしょうか?

・南房総は海に近い!東京は遠い!

でも体験の格差、興味の深さは立地だけではないんだなあと言うのも実感しました。"

・山も海も、どちらもなくてはならない、人の心の故郷です。

・海に関わる人たちは熱意が強いところ!

・南房総⇒里山の自然も豊か

・気候や地形の違いがあり海の様子や植物 生き物も違いがありました

・やはり海と山の南房総はいいです。

・南房総は自分自身のフィールドの一つですが、我国のどの地域も生物多様性や環境の視点では素晴らしいところが多いです。そして逆にそれぞれの場所での特有の課題もあります。そういった所を皆さんと議論していければと考えています。

・地域が環境教育にすごく力を入れていることがすごく分かり自分の住んでいる地域との差を感じました。自分の地域は黙っていても人口が増えているところなのでどうなっているのかももっと知っておかないと…と思いました。南房総は人口が減っていることを逆に上手くやっているのではないかと感じました。

・自分は、「海なし」の、山梨県に住んでいるので、南房総の様な「海」を、介しての地域の繋がりは、希薄な感じがします。ですが、海なしだからこそ、海との「繋がり」や、海への「感謝」を、意識しないといけなと、改めて、当フォーラムで感じました。

・南房総の良さ

海や山が身近で、自然の変化を日常的に感じられるところ。環境教育を学べる環境が整っていると感じた。

自分の地域の良さ

利便性が高いところ。一方で自然を感じられる場所が少ないため、環境教育を広げていく余地が大きい地域だと感じている。"

・活動されているさまざまな団体とのネットワークとコーディネーターの存在

・どこであって、そこで動くヒトなりだと思うので…地域としては比べようがないかな〜

・どちらにも(どの地にも)その地に根差した歴史風土があること。

・南房総は日本の太平洋岸の真ん中、まさにそのことが海の豊かさを産んでいると思います。

それを、地域の皆さんがもっと誇りに思えたら良いと思っていたら、まさに学校で南房総学・富山学という地域プログラムがある!そのことが素晴らしいと思いました。

自分の地域も海に囲まれ、海に関する授業や体験プログラムがありますが、もっと地域色を出したプログラムをローカルなエリアごとに工夫してもよいのでは、ということを感じました。"

・「南房総学」という地域への愛着と誇りを育む教育は素晴らしかった。生徒は地域を学ぶだけでなく、南房総学を通して自らの「学ぶ力」を高めていた。その陰には先生方のご指導に係るご苦労が多々あることかと思えます。子ども達や地域を愛するからこそ成せることなのかと思えました。沖縄北部地域に於いても、やはり地域についての学びや活動が多かったし、地域の「達人」に出張授業に来て頂くことも多かったのを思い出しました。クラス数も少なかったこともあり体験授業や校外学習への参加がしやすかったこと、町に高校が1つしかないため中学卒業後は親元を離れ他市(県)の高校進学をほとんどの生徒がせねばならないことも理由の1つかもしれません。私が暮らす埼玉は「総合学習」で地元の地域を学ぶのは主に小学校で実施されるが、今回の様な学びのものは異なる質のもののように感じる。「地域を愛する心」をもった大人になるには、パネルディスカッションでもあったよう

に子どもの頃の体験がとても大切なように思う。また、そのさまざまな体験を本気で楽しみながら子ども達に語る大人がいること、子ども達に伴走してくれる大人がたくさんいることが大切なんだなあと改めて思った。

・南房総は海だけでなく山や里地に恵まれている。南房総学や富山学など、地域との関係性を全体計画として実践しているのは、学生だけでなく地域の方たちにとっても非常に意味のある取り組みだと関心いたしました。都市集中の今、高齢化する中で必要なこと。全国に広めていただきたいです。

環境教育と学校教育を連携させるためにこれからしたい(継続含む)こと

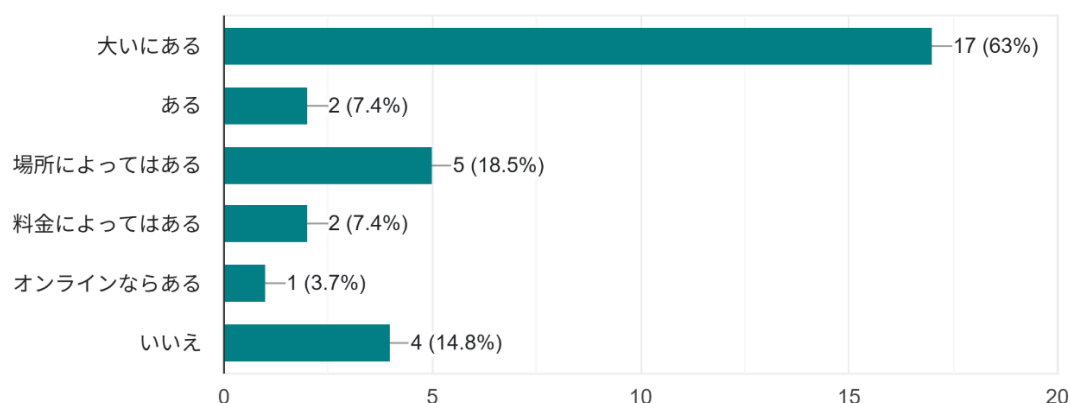
- ・藻場再生
 - ・他地域との連携
 - ・実際の体験を含めた講話、1年生のきっかけづくりから6年生の海の仕組みの授業などだんだんとステップアップしていく授業が必要だと思います。
 - ・地域課題を学校教育の中で向き合うこと
 - ・学校の先生とのつながりをもてるように情報収集などアンテナをはる
 - ・もっと対象となる小学生(自分の子供時代の小学生ではなく、現在の小学生)について知ること
 - ・人と人のつながりを作る為に、粘り強く顔を出していこうと思います。
 - ・今回のように、さまざまな専門家、情熱家が学校を訪れ、それが無理なくあたりまえになること
 - ・お互いの意思の疎通が最も大切だと思います。できれば、それをコーディネートできるインタープリターが常にそばにいてもらえるのが理想だと思います。どこで雇い、誰が育成するのか、という具体案は持っていませんが…。
 - ・今後も各地で広がっていくと、これからやろうとする時に参考になるし、学校側も受け入れてくれやすくなると思います。
 - ・地元の学校でのイベント予定があるので、そこからはじめます 😊
 - ・普段の活動で学校団体さんとの関わりがある活動をしているのですが、子供達だけでなく先生ともコミュニケーションをとり、先生にもより海のことに興味を持ってもらい、先生同士での口コミで海に関わる体験の良さが広がって、海に関わる体験ができる学校が増えたらいいなと思っています。
 - ・まずは継続あるのみ!
 - ・自分の子供達を通した学校との関わりがなかでパネルディスカッションでもありましたが先生にお話し出来たらとおもいました
 - ・今、以上に連携を強めたいと考えます。
 - ・互いの立場を理解した上で、片方だけの支援体制ではなくトータルウインの関係性を常に担保していくことが「連携」の基本です。その姿勢を常に有してさらに昇華させていくことが望ましいと考えます。
 - ・学校教育からの仕組みづくりのチャレンジ
 - ・今までやって来た事は間違っていないと思いましたので地道に活動を広げていこうと思っています。
 - ・やはり、教育指導要領を、我々の方が、もっと意識して、「取り組み易さ」を、もっと演出しないといけないなと感じました。そのうえで、学校や、先生と云った学校側の方々との繋がりとは別に、「地域」で、活躍されている「核」に、なっている様な方と、「繋がる」事に、取り組んでみたいと思います。パネルディスカッションで、鹿谷さんが仰っていた、「学校コーディネーターさん」の、様な人材が、各地に、もっといらっしゃるといいなあ。
- 当県には、残念ながらいらっしゃいません(涙)"
- ・先生と情報共有できるネットワークを作る
 - ・環境行政および教育委員会とのつながりづくり
 - ・学校の先生と"協働"してゆく(徐々にその方向には、すでに進めてはいますが)
 - ・地域連携の強化
 - ・今行っている学校への環境教育は継続しつつ、もっとローカルな視点で地域への誇りを持てるような内容にすると、学校・地域ごとの多様性を生み出し、自分たちの地域を意識して、好きになったり大事にしようと思う気持ちへと繋がられるような気がしています。

・学校現場で求めている環境教育の内容を先生方から直接聞くこと。(学校教育の場に於いて民間の方と連携をとり継続的に学習を行うことはなかなか難しかった。予算や年間の学習計画等がその理由だと思っているが…。教育現場の先生方が連携を望んでいるところがあるのであれば、今回のような素晴らしい方々を紹介したい。

・環境や DE&I など、社会に出てから必要になる知識、態度などを自ら考えて行動できるようになって欲しい。そのため企業と学校が連携しながら教員の負荷を軽減できるようなフレームワークの開発に取り組みます(取り組んでいます)。

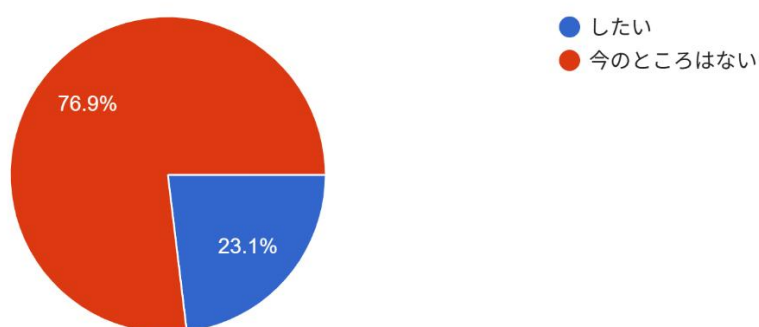
今後学校等から依頼があった際に講師として参加する意思がある

27 件の回答



フォーラムを自分の地域で開催したい

26 件の回答



その他

・初めてフォーラムに参加して、本当に来て良かった特に心から思いました。次回以降も参加したいと思っています。ありがとうございました。

・海に関する写真を 10 月 14 日の夜ギリギリになんとか投稿できたのですが、いただいたものを開いてみた所 1 枚も掲載されておりませんでした。でも期日ギリギリでしたし、私がちゃんと送れていなかったのかもしれませんが。。。大変残念な思いと疎外された感がありましたが、今となっては確認する術がありませんので提出した際に送信完了メールをいただける設定ですと嬉しいです。

この度は、ありがとうございました。

・たくさんの学びがありました。研修の機会を設定して、当施設職員にみなさんの熱意とフォーラムの意義、成果等を伝えます。そして、来年以降、国立の施設からの参加者が増えることを期待しています。

・海の博物館の奥野です。今回は本当にタメになる3日間をご提供頂き、誠にありがとうございました！

・楽しく有意義な3日間でした。

この経験を大いに活かしたいと思います"

・初めての参加で何をどうしたら良いのか分からないなか 係の方達の親切さやいらしてる方々のお話しの面白さ人間力に魅了されました

とても充実した時間でした

ありがとうございます

・今回の program は博学連携のモデルケースとなるものと検証しています。

・参加前に想像していた以上に充実感があつたので参加して良かったと思っております。

つまらなかったら来年からは参加しないなと思いましたが、南房総の皆さんのおかげでまた参加したいと思っています。色んな方々と知り合えた事で今後の広がりがあると嬉しいです(これは自分次第ですが)。楽しく、充実した3日間ありがとうございました。

・実行委員会の皆様、少し落ち着かれたら、皆様の「心」と、「身体」に、休養と、リラックスできる時間を、どうか作ってくださいね。自然の家を出た直後、やっぱり「釣り」を、しちゃいました。結果は…。だけど、やっぱり海はいいなあ。さあ、初の「洋上フォーラム」ワクワクしますね。

・出張授業の報告に盛り込むべき内容を事前にしおりに記載していただけると、授業の振り返りがよりスムーズにできたと思います。

・お世話になりました！

ほんと、文字通りに「お世話」をしていただいたおかげで様で快適な3日間でした。次の海辺Fでは「もっと参加者を働かせてもよい」と申し送りしてあげてくださいませ。私は、上げ膳据え膳で嬉しすぎましたけど。動かなくてご飯食べれて、お風呂入って、喋り、寝れる夢のような3日間でしたけど(笑)ありがとうございました!!

・上のフォーラムを自分の地域で開催「したい」の回答しましたが、実際できるかという難しいと思っています。(遠すぎる、会場に使えるスペースがない、宿泊施設の問題など)

・そのうちですが、沖縄あるいは奄美・沖縄でやっても良いかなと思うのと、その時は「海の環境教育とインタープリテーション」をテーマにできないかと考えています。

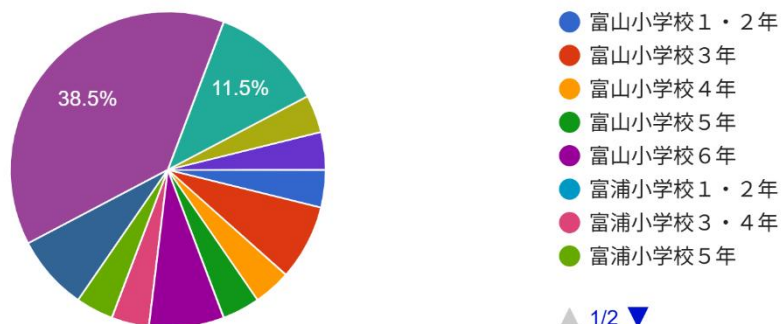
・長文回答になってしまいすみません。色々ありがとうございました。

・学校に赴くという過去にない実績を残され、参加者としても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました!また来年も楽しみにしています。

・教員・教育委員会

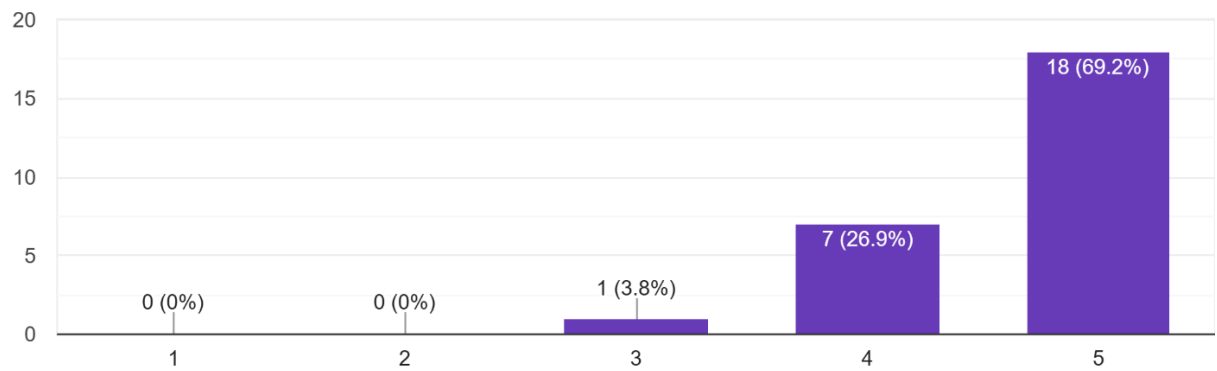
学校と学級をお願いいたします

26件の回答



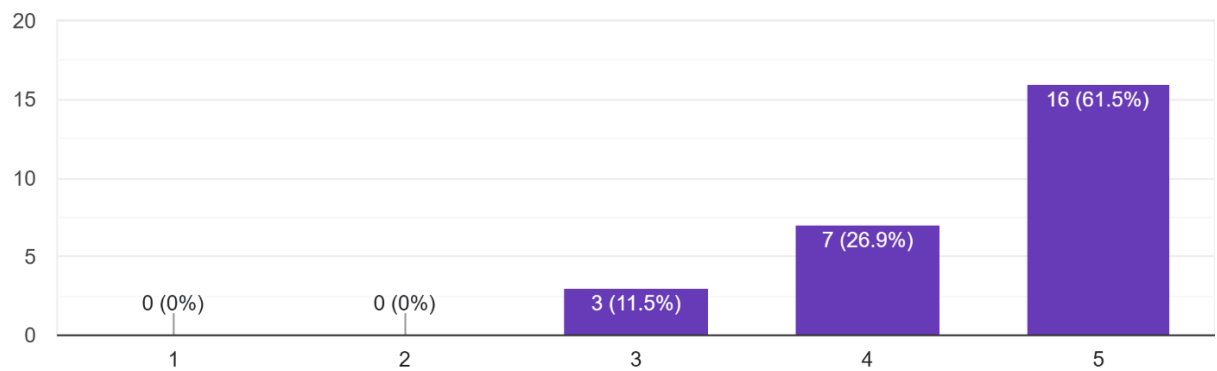
授業への満足度

26 件の回答



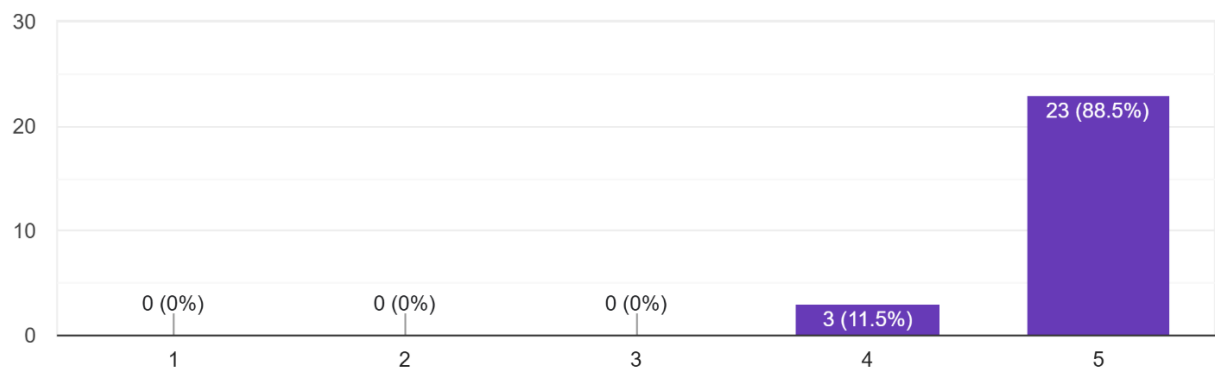
子どもの反応は良かったか

26 件の回答



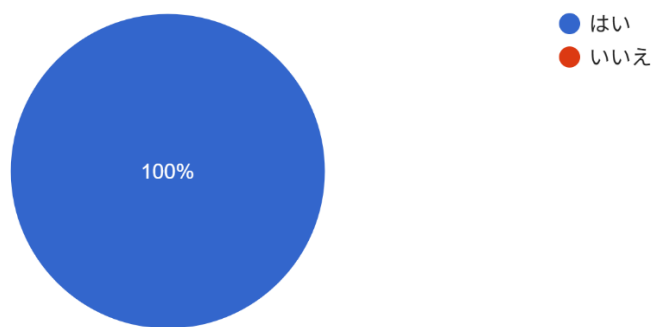
専門的な知識技能がある講師が来て良かったか

26 件の回答



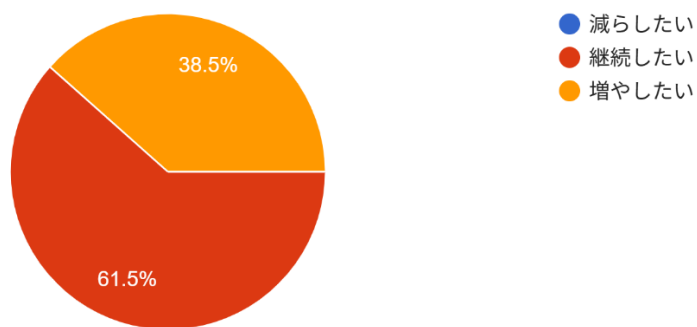
学校に環境教育や自然体験の指導者などの外部講師を呼びたいですか？

26 件の回答



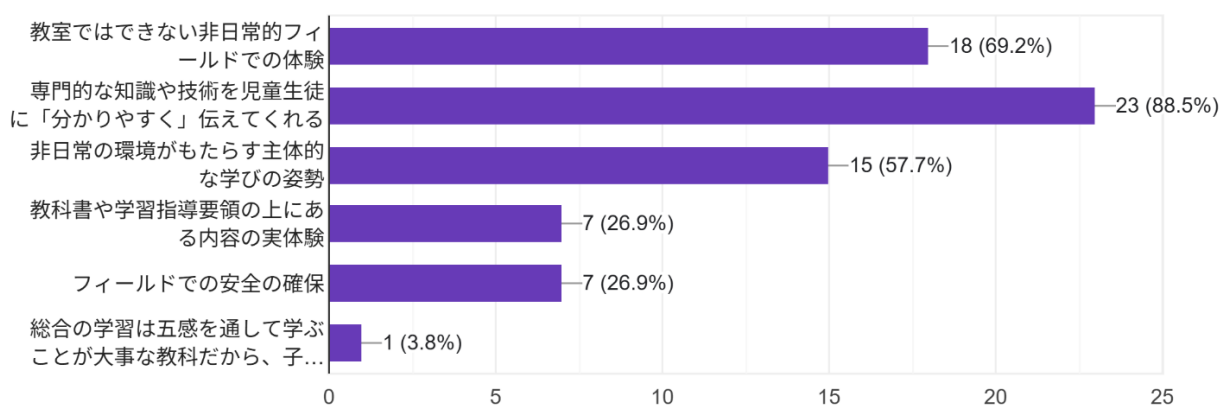
フィールド(野外・学校外)での体験を継続もしくは回数を増やしたいと思いますか(☆5→とても思う)

26 件の回答



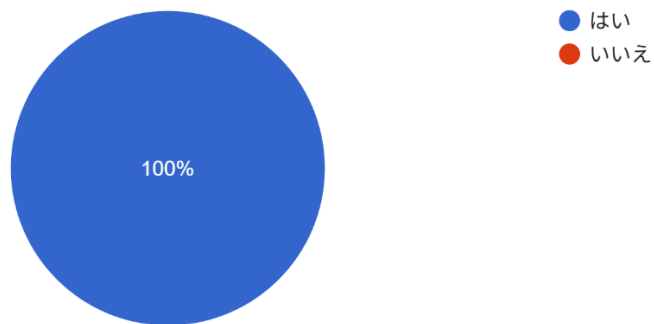
先生が外部講師や体験学習に期待する要素はなんですか？

26 件の回答



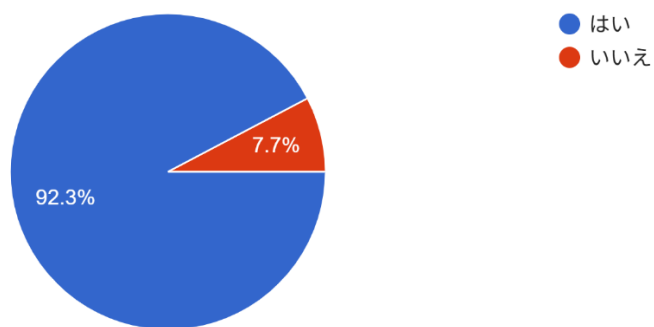
子ども達にとって海についての学習は必要だと思いますか

26 件の回答



講師の紹介と講師との連絡調整・謝金の支払いなど...うコーディネート組織があることを望みますか。

26 件の回答



その他

- ・引き続き期待しています
- ・お忙しい中、ご準備から当日までありがとうございました。またぜひ、よろしくお願いいたします。
- ・とても楽しい学習をありがとうございました。子どもたちも意欲的に取り組んでいて、自分自身も勉強になりました。
- ・コーディネーターが必要です!今後とも大房さんをお願いします!
- とても楽しかったです! 子どもたちも楽しそうでした!

6. 施設案内

会場・宿泊場所

～南房総市大房岬自然の家～

住所：千葉県南房総市富浦町多田良 1212-23

電話：0470-33-4561

南房総市の青少年教育施設（指定管理者：NPO 法人千葉自然学校）です。

普段は、小中学校の宿泊学習等で利用されることが多く、自然体験活動をする場所として最適な施設です。宿泊室、食堂、浴室、研修室、プラネタリウム、体育館などがあり、本フォーラムは施設を貸し切って行います。本施設は南房総国定公園大房岬内にあり、館山湾を望める芝生園地、遊歩道、展望台があります。磯遊びはもちろんのこと、野外炊飯や森の活動もでき、南房総の自然を満喫できるフィールドです。

自然の家 HP

<https://taibusa.jp/>

自然の家 Facebook（南房総野遊び倶楽部）

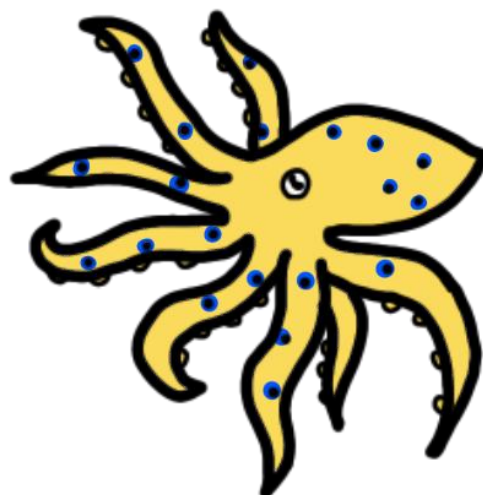
<https://www.facebook.com/minamiboso.noasobi>



自然の家 HP



自然の家 Facebook
（南房総野遊び倶楽部）



🌟 宿泊部屋 🌟



一部屋 6～12名分のベッドがあります。

部屋割りについては、事前に実行委員会の方で決めますので、当日ご案内します。(男女別)

シーツ等は全て施設のものをご利用頂けます。

宿泊部屋に鍵はございませんので、貴重品は自己管理をお願いします。

宿泊室での飲酒&おやつはご遠慮ください。

🌟 食堂・食事について 🌟



朝食・夕食(懇親会)の会場です。

1 日目夕食:17:30～18:15

2 日目夕食(懇親会):18:00～20:00

2 日目朝食:7:10～7:40

3 日目朝食:7:45～8:15

🌟 浴室・入浴について 🌟



利用できる時間:1 日目:19:00～23:00 2 日目:20:00～23:00

男女別で、一度に 15 名程入ることができます。

リンスインシャンプーとボディソープは備え付けががございます。

タオルはありませんので、必ずご持参ください。

ドライヤーは自然の家より貸し出しがございますが、各宿泊室で1台までのご利用をお願いします。(ブレーカーが落ちてしてしまうため)

🌟 1 日目交流会・体験会の会場～体育館～ 🌟



🌟 3 日目パネルディスカッションの会場～プラネタリウム～ 🌟

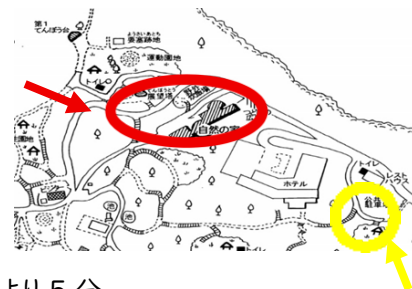


🌟 その他 🌟

- ・自動販売機…施設食堂内に1台、施設から徒歩 30 秒の所に 1 台、徒歩 5 分の所に数台あります
- ・水道水…飲料水です。

アクセスについて

自然の家はココ
(駐車場から徒歩 5 分)



駐車場はココ

🚗 自動車の方 🚗

- 東京 → 京葉道路 / 湾岸道路 → 館山自動車道 → 富津館山道路: 富浦 IC より 5 分
- 川崎 → アクアライン → 館山自動車道 → 富津館山線 → 富津館山道路: 富浦 IC より 5 分
- 久里浜港 → 東京湾フェリー → 金谷港 (40 分) → I27 号線 → 富浦 (車で 40 分)

ナビで「大房岬自然公園 駐車場」と検索してください 🔍

🚗 高速バス (JR バス / 日東交通 / 京成バス) の方 🚗 オススメ!

- 東京駅八重洲南口 (JR バス / 日東交通) → とみうら枇杷倶楽部 (約 1 時間 45 分) ※要予約
→ 徒歩 (40 分) またはタクシー (5 分)
- バスタ新宿 (JR バス / 日東交通) → とみうら枇杷倶楽部 (約 1 時間 50 分) ※要予約
→ 徒歩 (40 分) またはタクシー (5 分)
- 千葉駅 21 番のり場 (京成バス / 日東交通) → とみうら枇杷倶楽部 (約 1 時間 20 分)
→ 徒歩 (40 分) またはタクシー (5 分)



🚆 電車の方 🚆

- JR 内房線「富浦駅」下車 → 徒歩 40 分 または タクシー 5 分
(JR 千葉駅から約 1 時間 50 分)

★とみうら元気倶楽部・JR 富浦駅からは、希望の方はスタッフ車で送迎します★

【行き】

- 1 便 10:28 富浦駅 → 10:37 とみうら元気倶楽部 → 10:45 大房岬自然の家
- 2 便 10:57 とみうら元気倶楽部 → セブンイレブン (希望あれば) → 11:30 富浦駅
→ 11:35 大房岬自然の家
- 3 便 12:05 とみうら元気倶楽部 → セブンイレブン (希望あれば) → 12:30 大房岬自然の家
- 4 便 12:30 富浦駅 → 12:40 とみうら元気倶楽部 → 12:45 大房岬自然の家

【帰り】

- 1 便 12:10 2 便 12:40 3 便 13:10
- ※とみうら元気倶楽部 → JR 富浦駅の順で周回します

7. おわりに

副実行委員長 花嶋桃子

新参者にもかかわらず、「南房総で開催したい!」との申し出に快く承諾いただいてから約1年。教育委員会、先生方、チーフ講師やご参加の皆様とのやりとりで奮闘する中で、「これはえらいことを言い出してしまった」とめげそうになったり、申し込み者の数に一喜一憂していた日々が、今ではもうすっかり過去のものです(笑)

皆さんの笑顔、子どもたちの授業に対する真剣な眼差し、パネルディスカッションでの忌憚のない本音のやり取り。これらを目の当たりにして、南房総で開催させていただき本当に良かったと心から思いました。体験格差が叫ばれる世の中で、学校教育とのつながりは非常に重要だと考えます。

まだ道半ばではありますが、多くの子どもたちに「海の素晴らしさ」「自然の魅力」を皆さんと一緒に伝えていきたいと思います。今回できたご縁を大切に、今後とも末永いおつきあいができますと幸いです。

副実行委員長 牧田和紗

アクアマリンふくしまでの「子ども海の日」を体験し、南房総の子ども達にも、この素晴らしい海辺の環境教育を知ってもらいたい。南房総市の様々な海辺での取り組みや環境について全国のみなさまと共有したいという想いで走って来ました。私は小学校の先生をしていた経験があり、学校や先生の気持ちを想像しながら、調整と講師との授業づくりをしてきました。痛感したことは海辺の環境教育フォーラムに参加のみなさまのそれぞれの専門性があり、知らないことばかりということです。記念冊子の編集の際には「ウミガメの特徴は頭が大きいことなのか!」「住处と生き物の名前は関連しているのか!」と驚いてばかりで私自身、面白かったです。そして、この面白い情報は学習指導要領や教科書のどこと関連するするのか、年間計画(カリキュラム)にはどのように関連するのか、させられるのか。子ども達の期待するところはどこなのか、冊子では子ども達に分かる言い回しはどうなるのか。試行錯誤がありました。海辺の環境教育を南房総市の子ども達と南房総を訪れる子供たちに環境教育を受ける機会があり、海辺の環境教育が多くの学校で取り入れられ、「海って楽しい!」「海大好き!」「海を大切にしたい!」という想いを全国の子供たちと共有できたらよいな。と思います。「出張授業しよう!」という想いに共感して下さり、ご協力いただいた全ての皆さまに「ありがとう」という想いでいっぱいです。

通年事務局長 鹿谷麻夕

25年目、18回目のフォーラムを、2度目の南房総で開催できたことをとても嬉しく思います。また地元の教育委員会や学校と連携し、フォーラムの中で初の学校出前授業を行うのは一つのチャレンジでしたが、フォーラム参加者の皆さんが熱意を持って協力し、授業を作り上げていく様子はとてもクリエイティブで、フォーラムに集う人々の底力を見た思いです。こうした試みを通して、各地の海の多様な姿、そして海と関わり活動するメンバーの多様なあり方が、次の世代に伝わり繋がっていくことを心から願っています。ここに関係してくださった皆様、本当にありがとうございました!

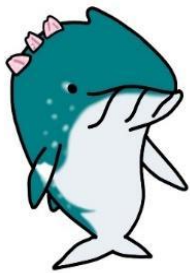
8. 実行委員名簿

NO.	名前	都道府県	所属
1	神保清司	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/南房総市大房岬自然の家
2	花嶋桃子	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/南房総市大房岬自然の家
3	牧田和紗	千葉県	南房総市地域おこし協力隊/南房総市大房岬自然の家
4	佐藤昭仁	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/南房総市大房岬自然の家
5	伏谷海斗	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/千葉県立大房岬自然公園
6	宮寄舞	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/南房総市大房岬自然の家
7	山口亮介	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/千葉県立大房岬自然公園
8	清水旭	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/千葉県立大房岬自然公園
9	香山正幸	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/君津亀山青少年自然の家
10	橋口和美	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/ヤックス自然学校
11	山崎大地	千葉県	NPO 法人千葉自然学校
12	坂井遥	神奈川県	アフタースクールワオキッズ上末吉園
13	田中朋子	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/南房総市大房岬自然の家
14	清水美寿穂	千葉県	NPO 法人千葉自然学校/南房総市大房岬自然の家
15	松田光央	千葉県	株式会社体験と健康

お問い合わせ 🌻 海辺の環境教育フォーラム 2025in 南房総実行委員会（事務局：南房総市大房岬自然の家）

メール：event@chiba-ns.net 電話：0470-33-4561

（担当：花嶋、牧田）



海辺の環境教育フォーラム
2025
in 南房総

